令 和 元 年 度

北広島 ふるさと夢プロジェクト

事 業 報 告 書

令 和 2 年 3 月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

目　　次

１．　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １

２．　令和元年度　「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 実施計画　・・２

３．　５年生「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

（１）実施計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４

（２）活動の様子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９

（３）児童アンケート結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

（４）児童作文　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

４．　６年生「夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう」

（１）実施計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

（２）活動の様子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

（３）講演会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

（４）児童アンケート結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

（５）児童作文　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

５．　「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って　・・・・・・・ 52

６．　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

は　じ　め　に

日本全国では今，人口減少，少子化，高齢化，第４次産業などにより，私たちを取り巻く環境は大きく変わってきています。その流れの中，北広島町でも都市部への流失が進み，少子高齢化も加速化しています。人口減少や少子高齢化が進むことによって，経済規模の縮小や社会保障費の増大，集落維持の困難などが危惧されています。

北広島町では「第２次北広島町長期総合計画」を策定し，その一つとして「夢と希望，豊かな学び合いにあふれたまちづくり」を掲げ，基本的な方向性を「ふるさとに誇りを持ち，たくましく生きる子供・若者・大人の育成」としています。その具体的な方策の一つとして「北広島町ふるさと夢プロジェクト」を展開して５年目となります。

現代社会では AI，ICT など教育の中にも急速に導入されてきています。このことは，これからの社会の中では避けては通ることはできず，更にはこれらを習得，活用しなければならない状況です。

しかし，もう一方で従来からある「心のかよった教育」も充実されることも大切であると考えています。北広島町の先人や郷土の歴史，自然や伝統，産業を地域の方々から直接交流をしながら学ぶことで，ふるさと北広島町に誇りや愛着を持ち，新たな人材を育成することに繋がると考えます。地域の方々との体験活動を通して地域の人々と繋がり，新たな地域の文化を創造し，様々な感動を味わい，主体的な学びや新しい取り組みが展開され，地域や人々との絆が深まり，生きる力につながっていくことを期待しています。少しずつではありますがふるさと北広島町に愛着を持って，将来北広島町に住みたいと考える子供達が増えています。

北広島町の宝である子供達が，ふるさとの自然，伝統，文化を継承し，次代の北広島町を担う子供たちを育てることが私たちの使命と思っております。この事業を継続発展させ地域の方々と共に作り上げていくことが一つの手段と思っております。

町民の皆様，地域の皆様の益々の御協力や御支援をよろしくお願いします。

令和２年３月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
隊　長　　箕　野　　博　司
（　北　広　島　町　長　）

令和元年度　北広島「ふるさと夢プロジェクト」実施計画

１　「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊について

事業目的:「ふるさとを知り，ふるさとを愛し，将来ふるさとに住みたい，ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み，将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町がすすめる若者定住を主要施策として，全町あげて定住対策に取り組むことにした。教育委員会では，「ふるさとを知り，ふるさとを愛し，将来ふるさとに住みたい，ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」を目的とし，定住対策の関連事業として「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は，北広島町で「こんなことができる，こんなものもできる」と思える魅力ある事業を行い，子供たちに町の魅力を再認識させ，将来「北広島町に住みたい，北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。事業を通して全町で同じ学年が同一体験をすることで，町内には多くの友達がいることを認識させ，仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。

事業主体　北広島町
主　　管　北広島町教育委員会
組　　織
町長を応援隊長とする。
副町長・教育長を副隊長とする。
隊員として，町長部局の総務課・企画課・商工観光課の職員，教育委員会の職員。
（本年度については，教育委員会事務局及び校長会が主体となって事業を行う。）
教育委員会事務局を事業事務局とする。また，学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。
将来的には，地域が主体となる組織とする。

【応援隊】

役　職	氏　名	
隊長	箕野　博司（町長）	
副隊長	中原　　健（副町長）	池田　庄策（教育長）
隊員	畑田　正法（総務課長）	砂田　寿紀（企画課長）
	沼田　真路（商工観光課長）	藤田　典生（中学校代表）
	佐々木　昭典（小学校代表）	教育委員会職員
事務局	石坪　隆雄（事務局長）	西村　豊（事務局次長）
	三宅　克江（事務局員）	沖中　満春（事務局員）
	黒田　典子（事務局員）	

２ 具体的な事業と学校の取組について

５・６年年生で実施する２つの事業を，教育委員会と一緒に９小学校が分担して諸計画を作成し，中心となって企画・準備・運営をする。<◎－事業ごとの責任校長>

■５年「町内宿泊体験学習（民泊）」
◎板倉（壬生小）　○二井岡（八重小）　○川上（大朝小）　○國本（芸北小）
<グループごとの責任校長　Ａ－二井岡　Ｂ－板倉　Ｃ－川上>
<期日・グループ分け>　小学校５年生　１５８名

Ａチーム ６６名　７班	令和元年９月 17 日～令和元年９月 20 日
	66 名：新庄小（8）　八重東小（27）　豊平小（31）
Ｂチーム ５９名　６班	令和元年９月 24 日～令和元年９月 27 日
	59 名：芸北小（11）　八重小（22）　壬生小（26）
Ｃチーム ３３名　３班	令和元年 10 月 15 日～令和元年 10 月 18 日
	33 名：大朝小（15）　川迫小（6）　本地小（12）

＜目　的＞
○民泊の一つのプログラムとして，子供達が主体的に活動できるウォークラリー体験を通して，八幡地域の自然の豊かさ，地域の方々との触れ合いの楽しさを学ばせ，ふるさとの良さを実感させる。
○町内の児童が協働してウォークラリー体験をすることで，必然的に課題解決する力や協働する力を養う。
○ウォークラリー体験等を通して，町内児童間の親睦を図る。

＜主な活動＞
・１日目－学校に宿泊（授業後に活動に入る）＜夕食作り・星空の観察等＞
・２日目－芸北文化ホール＜開会行事・学校紹介・人間関係作り・民泊家庭対面式＞
　　→　民泊家庭＜田舎暮らし体験＞
・３日目－八幡地域ウォークラリー＜クイズ・自然観察＞
　　→　民泊家庭＜田舎暮らし体験＞
・４日目－芸北大暮養魚場＜アマゴつかみ・調理＞
　　→　芸北文化ホール＜閉会式・民泊家庭お別れ式＞

■６年「ロケット製作･発射」
◎佐々木（八重東小）　○大丸（新庄小）　○上本（川迫小）　○神川（八重小）
○増田（本地小）

＜期　日＞
令和元年 10 月 17 日（水）
〔参加児童〕

芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
１６	１１	７	５	２２	２０	３６	１１	１６	１４４

＜目　的＞
○植松電機 植松社長の講演を通して，夢を持ち実現することのすばらしさを学ばせる。
○ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して，科学への興味関心を高めさせる。
○ロケット製作・発射の共同体験を通して，町内の児童間の親睦を図る。

＜主な活動＞
・植松電機 植松社長の講演を聞き，夢と感動のある生き方について考える。
・一人一基のロケットを製作し発射させる。
＜日　程＞○ 9:30～ 9:45　開会行事
○ 9:50～10:50　講演会
○11:00～12:00　ロケット作り（その後，記念撮影）
昼食
○13:00～14:00　ロケット発射
○14:00～14:10　閉会式　　※14:30 バスで各学校へ

※事業全体に関わる連絡調整（町教委･学校）・事務局担当（報告書作成を含む）＜八重東小＞

5　年　生

「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔５年生〕実施要項
「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

１　日　時　　Ａチーム　令和元年９月 17 日～令和元年９月 20 日
　　Ｂチーム　令和元年９月 24 日～令和元年９月 27 日
　　Ｃチーム　令和元年 10 月 15 日～令和元年 10 月 18 日
　場　所　　芸北文化ホール，八幡地区（本部：山麓庵），芸北大暮養魚場
　　芸北・豊平・大朝地域民宿等
　　〔芸北文化ホール〕
　　〒　731-2323　広島県山県郡北広島町川小田 10075-54
　　℡　0826-35-0070
　　〔八幡高原の自然館〕
　　〒　731-2551　広島県山県郡北広島町東八幡原 10119－1
　　℡　0826-36－2008
　　〔芸北大暮養魚場〕
　　〒　731-2204　広島県山県郡北広島町大暮 85-3
　　℡　0826-38-0734

２　目　的
○町内の自然を生かした体験活動や民泊等の地域の方とのふれあいをとおしてふるさとの良さを実感させる
○町内の同学年児童による自然の中での共同体験を通して，課題解決する力や協働する力を養う
○養魚場でのつかみ取りやウォークラリー体験等を通して，町内児童間の親睦を図る。

３　対象児童　グループ分け　小学校５年生　１５８名

Ａチーム ６６名　７班	令和元年９月 17 日～令和元年９月 20 日
	65 名：新庄小（8）　八重東小（27）　豊平小（31）
Ｂチーム ５９名　６班	令和元年９月 24 日～令和元年９月 27 日
	59 名：芸北小（11）　八重小（22）　壬生小（26）
Ｃチーム ３３名　３班	令和元年 10 月 15 日～令和元年 10 月 18 日
	33 名：大朝小（15）　川迫小（6）　本地小（12）

	芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男子	７	９	５	４	１２	１０	１５	７	１７	８６
女子	４	６	３	２	１０	１７	１１	５	１４	７２
計	１１	１５	８	６	２２	２７	２６	１２	３１	158

※引率者は，各学校２名以上とする。

４　日　程
（１）　１日目　各校で実施
（２）　２日目
各学校より芸北文化ホールへの集合〔A:小１中２　B：大１小１　C：大 1〕
A：八重東小〔8:45〕＝中型バス（２６＋先生）
A：豊平小〔8:25〕→新庄小〔8:45〕＝中型バス１台・小型バス１台（３９＋先生）
B：八重小〔8:45〕→芸北小〔9:20〕＝大型バス（３３＋先生）
B：壬生小〔8:45〕＝小型バス（２６＋先生）
C：本地小〔8:20〕→川迫小〔8:40〕→大朝小〔8:55〕＝大型バス（３３＋先生）

※　９時４５分に会場に到着できるように，計画を立てる。

全体会・活動の流れ

各校　　～　９：４５：到着
　各学校よりバスで文化ホール駐車場に到着後，ホールに荷物を置く。
９：４５～１０：００：荷物置き・準備・整列
１０：００～１０：２５：開会行事，学校紹介（各校２分）
　①　開会挨拶（町長・教育長）②校長代表挨拶　③児童代表挨拶　④各校より学校紹介
１０：３０～１１：２５：人間関係作り
　※　１グループ編成については３日間同グループで活動できるように調整する。
１１：３０～１２：３０：グループミーティング①
　・自己紹介
　・３日目，４日目の活動の見通しについて知る
　・ウォークラリーについて追加説明を聞き，理解する。
　・班名・班長決め
　・どんな係が必要か考える（時間係・盛り上げ係・ルート係・保健係等）
１２：３０～１３：００：昼食－グループごとに食べる。
１３：００～１３：３０：グループミーティング②
　・ウォークラリールート決め　・作戦会議等
１３：３０～１４：００：対面式
１４：００～　　：受け入れ家庭への受け渡し

（３）　３日目　「八幡ウォークラリー」　（雨天の場合：雨プログラム有り←お任せ）

ウォークラリーの流れ

各家庭　～　９：１０：芸北高原の自然館に集合（班ごとにまとめて荷物を置く）
９：１０～　９：３０：学校ごとに健康観察をする。トイレに行っておく。
　班ごとに整列する。
　開会式
　　○代表校長挨拶
　　○全体への指導，安全確認，トイレ
９：３０～１０：００　班ごとに持ち物のチェック
　　（ウォークラリーに必要なもの，水筒，筆記用具等）
　　※班担当教員－無線機の使用の仕方を確認
　作戦の確認
１０：００～　　芸北高原の自然館出発
●スタート時の持参物　班　－ストップウォッチ１個・デジタルカメラ１個・熊鈴・
　　ミッションの写真
　　個人－ウォークラリー説明資料・記録用紙，筆記用具
　　ウォークラリーの地図（カラー）
　　安全に係る資料（熊，マムシ・ハチ等への対応）
　　班担当教員－無線機・救護簡易バッグ・カメラ
○前日班ごとに話し合った内容をもとに各チェックポイントを目指し散策
○チェックポイントの「芸北高原の自然館」「牧野富太郎句碑」「霧ヶ谷湿原」では，ガイドさんから説明がある。クイズ大会があるのでしっかりとメモをする。
○ミッションの写真をもとに場所を探して同じ写真を撮る（３箇所）。児童写らない。
○芸北高原の自然館の隣の山麓庵で，１１：００～１２：１５の間に弁当を受け取り食べてゴールする。
○１３時（３時間）までに芸北高原の自然館へ帰る。
●担当教員は，班の最後尾に位置し活動への協力・支援をしない。ただし，安全に係ることについては指導をする。チェックポイントでは，班全員が写った写真を撮る。時刻は，ストップウォッチを持っているので，原則教えない。３時間が過ぎたら，そのことを告げ芸北高原の自然館に早急に帰るように指導する。不測の事態が生じた場合は，無線機を使って本部（芸北高原の自然館）へ，まず第一報を入れる。
●教員が，それぞれの班につくため，活動の様子についての写真は，後で共有できるように班全員の写真を撮るようにする。

＜チェックポイント＞
○カキツバタの里　○牧野富太郎句碑（説明有り）
○芸北高原の自然館　（説明有り）※山麓庵・・・弁当の受け取り場所
○霧ケ谷湿原　（説明有り）　＜トイレ＞　・・芸北高原の自然館
～１３：００：芸北高原の自然館帰着　山麓庵に移動
１３：００～１３：３０：クイズ大会
問題を班で協力して解く。
１３：３０～１４：００：ふり返り
班ごとに振り返りカードをもとに振り返り班ごとに整列する。
閉会式
○班ごとに，頑張ったこと，楽しかったこと等を発表する。
○活動を振り返って
○ガイドさん（霧ケ谷湿原・牧野富太郎句碑の２人）のお話
※スタッフ・ボランティアにお礼を全員で言って終わる。
班ごとの賞の発表は翌日の全体会で行う。
１４：００～　：民泊受け入れ家庭への受け渡し
受入れ家庭ごとに整列する
※引率職員は，クイズ大会の採点をしたり，各班の様子を交流し表彰状の内容を決定したりする。俳句の表彰について選考をする
後片付けを分担してする。
◆別に詳細の八幡ウォークラリー実施計画（案）有り

（４）　４日目　「川魚つかみどり体験」

川魚つかみどり体験の流れ

各家庭　～　９：４５：大暮養魚場に集合（班ごとにまとめて荷物を置く）
９：４５～１０：００：学校ごとに健康観察をする。トイレに行っておく。
班ごとに整列する。
１０：００～１３：１０
① 開会式　学校代表挨拶　児童代表挨拶　指導者より挨拶
② つかみ取り体験，調理体験、養殖の説明・施設見
③ 昼食
④ 閉会式　学校代表挨拶　児童代表挨拶　指導者より挨拶
※３～７班に分かれて活動する。
※各班で①炭おこし②つかみ取り③養殖施設の説明・施設見学に別れ，入れ替わる。
※魚を焼く囲炉裏は，各班で１つ使用。（最大１２人程度座れる広さあり）
※雨天の場合は，屋根がついているところを利用する。○代表校長挨拶
１３：３０～１４：００：閉会式会場への移動開始
１４：００～１４：２０：閉会行事
① ウォークラリーでの各賞の発表・表彰
② 校長代表挨拶
③ 児童代表挨拶
④ 北広島町代表挨拶
１４：２０～１４：５０　お別れ式　受入家庭と児童のお別れ式を行う
開会に当って観光協会からの振り返り
１４：５５～　各校へ出発　帰校

５　会場・準備物等

（１）開閉会式
【町教委】
・横看板　「北広島ふるさと夢プロジェクト（小５）「民泊体験」
・音響装置（マイク･スピーカー　等）　・記録用カメラ
【商工観光課】・プロジェクター，パソコン等
【学校】・賞状

（２）活動について（八幡ウォークラリー）
○当日までの準備・対応
＜各学校＞－印刷は町教委
・ウォークラリーについての説明資料＜全児童へ配布＞
・ウォークラリー記録用紙＜全児童へ配布＞
⇒　写真探しの３箇所の八幡の写真を貼ったものー写真については撮影済み
・ミッションにある写真（被写体）が写った写真＜Ａ４カラーで班に１枚（ラミネート）＞
・ウォークラリーに使う地図＜全児童へ配布＞－Ａ４カラー
・振り返りカード＜班ごと＞
※Bは，Ｂ・Ｃグループも使用。
＜各学校＞
・デジタルカメラ（各班に１個になるように。）
・記録用紙等をとめておくＡ４のバインダー等（各学校より人数分）
・ストップウォッチ（各班１個）
・救護用品＜班ごとの簡易バッグ（４）＞
※前日，３校長が最終の下見とチェックポイントを設置しに八幡へ行く。
＜町教委・観光協会＞
・安全指導の資料（熊・マムシ・ハチ等対応）＜全児童に配布＞
・無線＜本部・各班・弁当場所の担当者用＞
・熊よけ鈴（班に１つ）
・３箇所で説明をしていただくガイドさん等の打ち合わせ
・八幡地域との連携，役場芸北支所・消防署・駐在所・病院との連携
・弁当の手配
・クイズ大会の問題・解答・説明資料（白川学芸員と連携）
３箇所の説明をよく聞いていれば分かる問題・回答シート
○児童の持参物・服装
・ガムテープによく見えるように，学校名・名前を書き，ビブスの胸前にはる。
・筆記用具　・水筒・タオル・帽子　・リュック　・はきなれた靴
・カッパや傘（状況に応じて前日に指示）
・服装－長袖体操服（上下）半袖体操服か半袖Ｔシャツ（上）
（３）昼食
【町教委】弁当・お茶
（４）費用について
全体　20,432 円　　個人　7,000 円　　町　13,432 円　　※学校泊補助　600 円

6　報告書作成について

○実施後に，ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために，アンケートを実施する。アンケート事前に各学校へ送付する。
○次の内容の報告書を作成する。
【内容】プロジェクトのねらい，実施計画
活動の内容・様子　＜写真入りで，概要をまとめる＞
児童の作文＜各学校１人－400 字原稿用紙で２枚以内＞
実施後のアンケート結果

7　役割分担及び安全管理・安全指導

計画策定委員会を中心に企画・準備
○外部関係機関（商工会・八幡地域・芸北支所・駐在所・消防署・病院）との渉外及び届出書（町教委＜黒田・沖中＞）
○バス会社と連携（町教委）
○教育委員会届出（各学校）　○保護者通知（各学校）　○会計（町教育委員会）
○しおり（各グループ→各学校）
○全体会に関わって
◆全体会進行＜各グループで相談＞　◆開会式校長代表挨拶＜各グループで相談＞
◆閉会挨拶・謝辞＜参加校長代表＞　◆児童代表挨拶（閉会）＜各グループで相談＞
○報告書作成（八重東小－佐々木）
◆プロジェクトのねらい（八重東小）

◆活動の内容・様子－写真入り，Ａ４で４枚程度にまとめる。＜各グループで担当を決めて＞
◆記録用写真撮影＜各グループで担当を決めて＞
◆作文＜各学校１人－400 字原稿用紙で２枚以内＞
　　学校ごとに指導して作成－作文をパソコン入力して，データを八重東小へ送付
◆実施後のアンケート結果は学校ごとに集計して，10 月 31 日までに（共有フォルダー）へ送付
◆活動の様子，作文は，12 月 13 日までに作成してデータを八重東小
◆夢プロだより（民泊）は壬生小担当・・・11 月配布予定

〇安全についての指導（各グループ，各校で事前学習を行う）
・交通安全
・生活安全（動物・植物等について，熱中症等）
・災害安全（大雨・雷・洪水）

〇民泊についての総括（壬生小－板倉）

８　その他

〇プロジェクトの趣旨を踏まえて，児童に目的意識を持って参加させるようにする。
〇保護者案内は，提出日を目安に学校ごとに作成して配布する。
〇特別な支援を必要とする児童，健康に留意する必要のある児童については，事前に保護者と連携をしておくとともに，引率職員体制について配慮する。

提出する書類・事前学習や確認に活用する資料

【学校提出書類】
北広島町農山村体験申し込み・活動実施計画・緊急時関係者連絡網の作成・食事手配希望表
自己紹介カードの作成・健康カード・アレルギーアンケート・ホームページ掲載承諾書
受入家庭あて書類送付リスト・民泊割表・引率者の宿泊部屋割・しおり・プラカード

〔学校で作成・活用〕
体験の班分け表・提出書類チェック表・持ち物チェック表

児童・保護者の準備物

〔服装〕：長袖体操服（上下），半袖体操服か半袖Ｔシャツ（上），赤白帽子，はき慣れた運動靴

〔持ち物〕

<table>
<tr><th colspan="2">服装・着替え</th><th colspan="2">日用品</th><th>その他</th></tr>
<tr><td rowspan="3">上着類
（３日分）</td><td>シャツ（長袖）</td><td rowspan="3">洗面用具</td><td>歯ブラシ</td><td rowspan="3">リュックサック
（弁当・水筒が入るサイズ）</td></tr>
<tr><td>ズボン（くるぶしまで隠れるもの）</td><td>歯磨き粉</td></tr>
<tr><td>防寒用</td><td>タオル</td></tr>
<tr><td rowspan="2">下着類
（３日分）</td><td>シャツ</td><td colspan="2" rowspan="2">毛布･寝袋等
（１泊目用）</td><td>虫除けスプレー・ジェル【※十分に用意】</td></tr>
<tr><td>パンツ</td><td>虫ささされ薬【※体に合うものを十分に用意】</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">◆【ウォークラリー用】【川魚つかみどり用】
長袖体操服（上下））</td><td colspan="2">ハンカチ（４日分）</td><td rowspan="3">熊よけ鈴（ある人）
※ない人は学校で準備する</td></tr>
<tr><td colspan="2">ティッシュ（４日分）</td></tr>
<tr><td colspan="2">◆【川魚つかみどり用】
半袖体操服かＴシャツ（上）・半ズボン</td><td colspan="2">タオル（５～６枚）</td></tr>
<tr><td colspan="2">帽子（赤白帽）</td><td colspan="2">ビニール袋　必要枚数
（着替え入れ・ごみ）</td><td>水筒
（ペットボトル不可・大きすぎないもの）</td></tr>
<tr><td colspan="2">くつ下（４日分）</td><td colspan="2" rowspan="3">軍手(滑り止めのついていない木綿のもの１セット
【田舎暮らし体験，つかみ取り用】</td><td rowspan="2">敷物（ウォークラリー用）</td></tr>
<tr><td colspan="2">運動靴（履き慣れたもの）</td></tr>
<tr><td colspan="2">名札　※学校が準備）</td><td>体験活動のしおり</td></tr>
<tr><td colspan="2">濡れてもよい運動靴かシューズ
【川魚つかみどり用】×サンダルは不可</td><td rowspan="3">雨具
（両方）</td><td>カッパ</td><td>筆記用具</td></tr>
<tr><td colspan="2">長靴（林業・農業体験等で使用）</td><td rowspan="2">折りたたみかさ</td><td>常備薬
（必要に応じて）</td></tr>
<tr><td colspan="2">寝間着（ジャージ・パジャマ）</td><td>保険証（コピー）</td></tr>
</table>

※その他，１泊目に必要なものがあれば，各校で加える。
※全ての持ち物に名前を書く。

「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」の活動の様子

【民泊体験活動　Ａグループ】　（新庄小・八重東小・豊平小）

＜　第１日目（９月１７日）＞　※１日目は，各学校に宿泊

	活動内容	活動の様子
新庄小学校	「防災教室」 北広島町消防署大朝出張所の方から，平成２６年の「広島市豪雨土砂災害」の様子や自分達でできる災害対策について指導いただきました。 災害から私たちの身を守るためには，「危険を感じたら，早めに避難して身を守ること」「家族・隣の家の人に声をかけて一緒に避難すること」の大切さを学びました。 また，災害のとき，簡単にしかも役に立つ，ズボンと紐ひとつでできる「リュックサック」，アルミホイール・トイレットペーパー１枚とサラダ油でできる「ろうそく」を実際に製作しました。	
八重東小学校	「カレー作り＆学級レク」 事前に材料の分量や役割分担を確認したり，作り方について調べたりしていたカレーライスを作りました。美味しいカレーライスを作るためにはどうしたらよいか自分達で考え，実際に挑戦し，その結果から自分達をふり返って今後の自分の生活につなげる活動になりました。 次に，学級レクを行いました。３つのグループに分かれ，どうすれば明日からみんなで民泊をがんばろうという気持ちになれるのか，どうすれば学級の団結力が高まるのかなどを考え，「風船バレー」「話し合いゲーム」「背中文字当てゲーム」をしました。協力しないと課題を解決することができないルールがあり，とても見ごたえがありました。	
豊平小学校	「カレー作り＆星空観察」 はじめの式で３泊４日の活動への思いを高めたあと，早速，夕食のカレー＆サラダをつくりました。各班で「ああだ」「こうだ」と言い合いながらまとまって調理しました。でき上がったカレーは班ごとに個性のある味でした。食べた後も，協力して，合格が出るまできっちり片付けました。わいわいがやがやとともに活動することで，仲を深めることができました。 午後６時過ぎからは，龍頭温泉に入浴に行きました。 星空観察では，星座早見盤も使いながら星座を観察しました。また，豊平中学校の天体望遠鏡で木星を見ることもできました。 午後９時過ぎには，翌日からの民泊体験に思いをはせながら就寝しました。	

＜第２日目（９月１８日）＞　開会式・人間関係づくり・対面式

○開会式（芸北文化ホール）

民泊Ａグループ（八重東小・豊平小・新庄小）児童６３名が芸北文化ホールに集合し，開会式を行いました。

豊平小学校の二井岡校長先生から「ふるさとの良さを実感する」「課題解決する力や協働する力をつける」「他の学校の人と仲良くなる」という３つの目標について話がありました。

開会式の中での学校紹介では，各校の自慢を堂々と披露しました。

○人間関係作り，グループミーティング（芸北文化ホール）

初めて出会う他校の友達とも，三日間を協力して楽しく過ごせるように，ゲームを通した人間関係づくりを行いました。

体を動かし，温めることで心もほぐれ，徐々に笑顔が出てきました。失敗を楽しめるゲームでお互いに安心感が生まれ，体と心の距離が縮まってきたころ，課題解決的なゲームにチャレンジしました。グループのメンバーで作戦を出し合ったり協力したりしながら解決を目指すことで，団結してくる様子が見られました。

その後，翌日のウォークラリーに向け，班の目標や係，作戦などを相談して決めました。知り合って間もないはずですが，他校の友達とも積極的に会話する児童が多くいました。なかなか意見が言えないグループメンバーに優しく声をかける児童の姿も見られました。

○対面式（芸北文化ホール）

午後の対面式では，少し緊張した様子の児童でしたが，受け入れ家庭の方が優しく声をかけてくださり，すぐに児童にも笑顔が見られました。

簡単な自己紹介の後，受け入れ家庭の家へ向かいました。

各家庭では，早速体験をさせてもらった児童もいました。

天候も良く，最高の出会いになった１日でした。

＜第３日目（９月１９日）＞ 八幡湿原ウォークラリー・田舎暮らし体験

○八幡湿原ウォークラリー

各民泊家庭から、八幡高原の自然館横の山麓庵前に集まって，夏の暑さと秋の高原の心地よい風の両方を感じながら、八幡湿原ウォークラリーを実施しました。

①コースにある４つのポイントでミッションを果たす。

②チェックカードを探して文字を集め、並べ替えて文にする。

これらにグループで協力して取り組みました。

【山麓庵前に集合！「やるぞ！」↓】

【←グループでポーズ↓】

ミッションの一つは、みんなで歌える歌を元気いっぱい歌って、先生からＯＫをもらうことです。「さんぽ」「ふるさと」などをグループ全員が心を一つに声を張り上げ歌いました。ほかにも、アンパンマンの正しいイラストを選ぶ、しりとりを全員でつなぐ、輪になって趣味や特技を紹介し合うというミッションに取り組みました。

チェックポイントでは、現地ガイドさんから「牧野富太郎句碑」「霧ヶ谷湿原」「カキツバタの里」などの説明も受けました。ウォークラリー後のクイズ大会で、ここから出題されることを踏まえ、普段にない熱心さでメモを取る班もいました。

【←ガイドさんから説明を受けました。「なるほどなあ。」↓】

クイズ大会では、「牧野富太郎の句碑の前に植えられている笹（ササ）の名前は？」など八幡高原にちなんだクイズ６問が出題されました、グループ全員が頭を突き合わせて課題に取り組む姿を見ることができました。

【←頭を寄せて考える姿がいいのです！】

今回のウォークラリーには、加計高校芸北分校２・３年生がボランティア参加してくださいました。安全に配慮していただくとともに、異学年との交流をすすめることもできました。ありがとうございました。

【みなさん。またどこかでお会いしましょう↓】

○民泊家庭での体験活動（田舎暮らし体験）

ウォークラリー終了後は、それぞれの民泊家庭に戻って、２日目の体験をしました。

第４日目（９月２０日）＞　　魚のつかみ取り，お別れ式

○魚のつかみ取り体験（芸北　大暮養魚場）

民泊体験活動最終日は魚のつかみ取り体験を行いました。まず，大暮養魚場の施設を案内していただきました。アマゴとヤマメの違いや魚を育てる上で大切にしていることなどの話を聞くことができました。また，広島レモンサーモンの養殖にも力を入れておられることが分かりました。

次に，「命」についてのお話をしていただきました。人間だけでなく，魚や動物などには全て命があります。自分達が生きていくために感謝して命をいただくことが大切だと言っておられました。どの児童も真剣に自分ごととして受け止めながら話を聞いていたように思います。

そして，いよいよ魚のつかみとりです。児童は岩の隙間や空いたスペースに素早く逃げるアマゴを一生けん命追いかけながら捕まえていました。つかみ取り後は，捕まえたアマゴを調理し，命に感謝しながら美味しくいただきました。

火起こしやアマゴの調理など，どの活動班もみんなで協力しながら行うことができていました。

○閉会式（芸北文化ホール）

民泊最終日の最後には，閉会式を行いました。観光協会の方が用意してくださった３泊４日の民泊活動を振り返るムービーを全員で観賞しました。楽しかったことや大変だったことを思い出しながら，思い出に浸ることができました。また，お世話になった民泊家庭の方や他の小学校の友達とのお別れの際には，別れを惜しむ児童の姿が見られました。それだけ充実した民泊体験になったのだと思います。

民泊体験活動を支えてくださった全ての関係者の皆様，本当にありがとうございました。

【民泊体験活動　Ｂグループ】　（芸北小・八重小・壬生小）

〈 第１日目（９月２４日)〉　※１日目は，各学校に宿泊

	活動内容	活動の様子
芸北小学校	学校のライフライン（電気・ガス・水道）の供給が停止した中で，どう考え，どう行動できるのかという妨げを設定し活動しました。これまでの経験から得た知識や技能を活かして，児童は真剣に話し合いました。「飲料水は地域の方にもらいに行く」「懐中電灯は地域の方に借りる」「トイレの水は川へくみに行く」「ガスの代わりに火をおこして調理する」と決め，役割分担をして活動を続けました。日が傾き暗くなっていく中，おこした火でカレーを作り，暗くなった教室でなんとか出来上がったカレーを食べました。ふり返りでは，「何とかしようと知恵を出し合い，協力して活動すれば，何でもできる。明日からの活動もみんなで頑張ろう！」と，明日からの活動に向けて，夢と希望を抱きながら初日の活動を終えました。	
八重小学校	夕食のカレーを家庭科室で作りました。各班で協力して，事前に考えた役割分担表をもとに，調理にとりかかりました。【おいしく，安全に】を合言葉に調理しました。出来上がった美味しいカレーをおなかいっぱい食べました。 夕食後，星空観察を行いました。満点の星空で，はっきりと星や星座を見ることができました。普段何気なく見ている星空も，星座の名前やその由来，星座にまつわるエピソードを知ることで子どもたちの星空への興味はぐんと高まりました。「このきれいな星空も北広島の良さだよね」と実感した星空観察会になりました。	
壬生小学校	民泊体験活動の１日目は，防災学習から始まりました。消防署の方から，土砂災害の様子や避難の仕方などを教えていただきました。また，自分の命だけでなく，周りの人の命も救えるようになろうということで，心肺蘇生法や AED の使い方を実践を交えながら学習しました。 夕食は，カレーライス作りに挑戦！時間の都合上，１時間という限られた時間の中で完成させなければならないため，一人一人が役割を担い，その仕事をしっかりと果たそうと頑張りました。みんなの頑張りが詰まった，とてもおいしいカレーでした。そして１日の振り返りをし，お楽しみタイムの後，就寝しました。	

＜第２日目（９月 25 日）＞　開会式・人間関係づくり・対面式

○開会式（芸北文化ホール）

民泊Ｂグループ（壬生小・芸北小・八重小）児童６０名が芸北文化ホールに集合し，開会式を行いました。

壬生小学校の板倉校長先生から「民泊を通して様々なことに挑戦しよう」というお話がありました。

また，それぞれの学校の紹介も行いました。各校の特色を生かした発表でした。

○人間関係作り，グループミーティング（芸北文化ホール）

他校の友達とも，三日間を協力して楽しく，仲良く過ごせるように，ゲームを通した人間関係づくりを行いました。

初めは『自己紹介じゃんけん』をしました。やり始めは照れた様子でしたが，回数を重ねるごとに笑顔が増えました。『フラフープ』くぐりでは，手をつなぎ心だけでなく，体の距離も近づけることができました。『ブルーシートレース』では，声を合わせ，協力してゴールすることができました。３つのゲームを通して子供達はすっかり打ち解け，その後の活動もスムーズに行えました。

そして，翌日のウォークラリーに向け，班の目標や係，作戦などを相談して決めました。知り合って間もないはずですが，他校の友達とも積極的に会話する児童が多くいました。なかなか意見が言えないグループメンバーに優しく声をかける児童の姿も見られました。

○対面式（芸北文化ホール）

昼食を済ませて，午後に民泊家庭の方と対面式を行いました。これからお世話になるおうちの方々はどんな方なのだろうと子供達は緊張している様子でした。

簡単な自己紹介の後，受け入れ家庭の家へ向かいました。

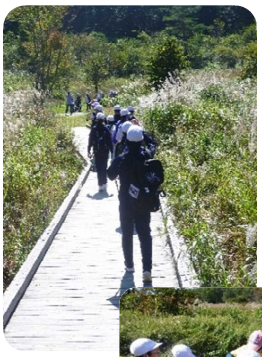
各家庭では，田舎暮らし体験をさせていただきました。

野菜の収穫や川遊び等，普段の生活ではあまりしないような体験を通して，自然の素晴らしさや人のあたたかさを感じることができました。

晴天にも恵まれ，よい出会いがたくさんある一日となりました。

〈 第３日目（９月２６日）〉　八幡ウォークラリー・田舎暮らし体験

○八幡ウォークラリー



透き通った青空の下，３日目の活動である八幡ウォークラリーが始まりました。前日の人間関係づくりで，どの班も作戦を立てているため，気合い十分です。時間内に全てのミッションを達成しようと，地図とストップウォッチを手に，さあ出発です！

出発すると，どの班も最初のチェックポイントに向けて一目散です。中には走る班も。しかし，その速さについていけずバラバラになってしまうこともありましたが，みんなで協力し合うことが大切ということをその都度確認し，上手に歩こうと頑張りました。

この日は天気も良く，気温も上がりました。熱中症にならないよう，衣服の脱ぎ着をしたり，水分補給をしたりする時間をこまめにとろうと，「安全係」の人やリーダーが積極的に声をかけてくれました。チェックポイントでは，一生懸命に説明を聞いたり，写真撮影をしたりする姿が印象的でした。

どの班も５～６ｋｍ歩いた，このウォークラリー。到着した時には少し疲れも見られましたが，仲間とミッションをクリアする中でできた温かい空気と，その達成感に溢れていました。ミッション以上に得るものの大きかった活動になりました。

○田舎暮らし体験

田舎暮らし体験では，農作業をさせてもらったり，魚釣りをしたりと民泊家庭ごとに様々な体験をさせてもらいました。

畑では，サツマイモやインゲンなどの野菜の収穫をさせていただき，夏から秋へと季節が変わっていることを子供達は感じたようです。ほかにも，「栗拾いへ連れて行ってもらい，その拾った栗を栗ごはんにして食べたら，美味しすぎて驚いた」と言っていた子供達。

今までしたことのない経験をさせていただき，その一つ一つが新鮮で楽しかった様子が伺えました。

田舎に住みながらも，なかなか体験できない田舎暮らしの体験。そして，その中で感じる民泊家庭の家族の方の温かい言葉や心遣いを感じ，改めて北広島町の良さを実感することができました。

〈 第４日目（７月１３日）〉　　アマゴのつかみ取り　お別れ式

○川魚つかみ取り体験（大暮養魚場）

民泊３日目は芸北の大暮養魚場へ集合し，川魚のつかみ取り体験を行いました。

大暮養魚場では，まず命の話をしていただきました。私達は自然界から命をいただくことによって自分たちの命を繋いでいるという事を知り，感謝しながらその命をいただかなければならないことを話していただきました。

【命についてのお話】

【悪戦苦闘した炭火おこし】

次に，２グループに分かれ，アマゴについての学習と，炭火をおこす体験をしました。アマゴとヤマメの違いや，アマゴは太田川水系に生息しており，水が澄んでいるきれいな川でしか生きられないことなどを学びました。

炭火おこしは班ごとに行いました。マッチをすった後，どうやったら火を大きくすることができるかに悪戦苦闘していましたが，班の仲間と協力し，全ての班が無事に炭火をおこすことができました。

そして，アマゴのつかみ取り，捕まえたアマゴの内臓の取り出しを行い，おこした炭火で焼いていただきました。つかまえる時はとても楽しそうに行っていましたが，内蔵を取り出す方法を目の前で見せていただいた時は，目を背ける児童や驚いた様子の児童がたくさんいました。しかしその後，自分達の手でアマゴの内臓を取り出しました。

【つかみ取り体験】

炭火で焼いたアマゴは大変おいしくいただくことができました。

このように，「私たちは命をいただいて生きている」という事を実感できたことは，子ども達にとって貴重な体験となりました。

「いっただっきま～す！」

○閉会式・お別れ式（芸北文化ホール）

芸北文化ホールに移動し，３泊４日にわたる民泊体験活動の閉会式を行いました。

そして，お世話になった民泊家庭の方とお別れ式をしました。

「３日間ありがとうございました。」と，みんなで心をこめてお礼を言いました。「また，泊まりに行きます。」「薪割が楽しかったです。」などの声が，あちらこちらから聞こえてきました。

壬生小学校，八重小学校，そして芸北小学校。児童一人ひとりが貴重な思い出を作り，民泊活動を終えました。

「３日間，ありがとうございました！」

【民泊体験活動　Ｃグループ】　（大朝小・川迫小・本地小）

〈 第１日目（１０月１５日)〉※１日目は，各学校に宿泊

	活動内容	活動の様子
大朝小学校	１日目は，午後から学校で開会式の後，防災教室を行いました。役場の危機管理課から危機管理監　野上正宏様をお招きして町内の災害の状況を学び，その後，消防署から渡辺肇様をお招きして人工呼吸法，胸骨圧迫法，AED 使用から救急救命法を学び，緊急時に私たちのとるべき行動について考えました。夕方からは，地域で田植え・稲刈りをさせていただいた田んぼで収穫したお米でカレーライスを作りました。一段とおいしかったです。 辺りも暗くなった 18:30 からは，避難訓練を兼ねて自分の荷物を持ってグリーンヒル大朝まで歩きました。入館式の後，ゆっくりお風呂に入りました。温かくて気持ち良かったです。ミーティングと振り返りをして次の日に備えて就寝しました。	
川迫小学校	１日目。１６時下校の後，民泊体験活動が始まりました。身の回りの整理整頓を済ませ，いよいよ夕食づくりです。メニューは，カレーライスと野菜サラダです。２つのグループに分かれ，役割や手順を考えて作りました。自分達で力を合わせて作った料理は最高においしく，みんなカレーライスのおかわりをしました。いつもの５年生なら，ご飯がたくさん残るのですが，元気いっぱいの４人の男子が，しっかり食べてくれたおかげで，ご飯がほんの少ししか残らず，それは朝食のおにぎりにしてもらいました。 その後は，デザートもおいしくいただき，明日の学校紹介の練習をして，保健室と多目的ホールに分かれて眠りました。	
本地小学校	１日目，午前中は北広島町消防署の方に来て頂いて，防災学習を行いました。災害の種類や注意点についてのお話を聞き，災害時に活用できる新聞紙を使った簡易スリッパの作成や毛布と木の棒を使った簡易担架の作成や体験をさせていただきました。午後からは，夕食のカレーライスを作りました。リンゴと蜂蜜，チーズを使って自分達好みの味に整えました。また，使用する米は，今年度学校田で子供達が育てた新米です。一旦下校し，入浴を済ませ，１８：３０に学校に集まりました。どの班も協力しておいしい夕ごはんができました。明日からはいよいよ３校合同での民泊体験が始まります。活動内容や学校での目標を確認しました。少し緊張して眠れるか心配だったようですが，22 時ごろには，みんなぐっすりと眠ることができたようです。	

〈 第２日目（１０月１６日)〉　　人間関係作り・対面式

○開会式

民泊Ｃグループ（大朝小・川迫小・本地小）の児童３１名が芸北文化ホールに集合し，開会式を行いました。少し緊張気味の中，学校紹介を行いました。どの小学校も自分達の学校の自慢を堂々と発表することができました。

また，大朝小学校の川上校長先生から「ふるさとの良さを実感しよう」「課題解決する力や協働する力をつけよう」「他の学校の人と仲良くなろう」の３つの目標を聞き，活動への期待や意欲を高めていました。

○人間関係作り

他校の友達とも今日から３日間一緒に行動することもあり，ゲームを通した人間関係作りを行いました。最初は「カクカクおにごっこ」です。まっすぐに進むか直角に向きを変えることしかできないルールです。逃げるのも，追いかけるのも一苦労ありましたが，子ども達の表情が和らぎ，少し緊張していた雰囲気が解け始めました。

次は，「バースデーチェーン」です。無言で１月から 12 月の誕生日順に並び直します。身振り手振りを使って，お互いの誕生日を確認しました。うまく誕生日順に並べた事が分かると，自然と拍手が起こりました。その後，ペアを作ってのインタビュータイムや３グループに分かれて，インタビューで聞いた事をもとにペアになった人を紹介する「タコ紹介」をしました。

最後は，「ミラクルじゃんけん」です。グループごとに全員同じ手を出せばよいルールです。最初は中々揃わなかったのですが，徐々にコツをつかんで揃うようになりました。最後は参加者全員でミラクルジャンケンをし，一発で全員同じ手を出して一体感を感じる事ができました。

その後は，班で班名を決めたり次の日のウォークラリーに向けて話し合いをしたりしました。素敵な笑顔がたくさん見られる人間関係作りとなりました。

○対面式

活動班ごとに昼食をとった後，いよいよ受け入れ家庭の方々と対面式です。C グループは，芸北地域の民泊家庭の方と顔を合わせました。

最初は少し緊張した様子で自己紹介や挨拶をしていた子供達ですが，受け入れ家庭の方の温かく優しい笑顔や言葉かけに安心したり，これからどんな活動を一緒にしてくださるのか説明をしてくださったことへの期待に胸を膨らませたりしながら，元気よくそれぞれの民泊先へ向かいました。

〈 第３日目（１０月１７日)〉　八幡ウォークラリー・田舎暮らし体験

○八幡ウォークラリー

楽しみにしていたウォークラリーの日がやってきました。それぞれの民泊家庭で過ごした友達が集まり，昨日の人間関係つくりで友達になった班の人たちと作戦の確認をする所からスタートしました。

秋の爽やかな天気のもと，八幡高原の散策に３つの班が出発しました。霧が谷湿原に向かう班，牧野富太郎博士の句碑を目指す班，高原の自然館から挑戦する班，いろいろでした。

チェックポイントは，高原の自然館，霧が谷湿原，牧野富太郎博士の句碑，カキツバタの里の４箇所でした。

高原の自然館では，学芸員の方から芸北の自然の特徴であるブナの森などの説明をしていただきました。霧が谷湿原では，トレッキングガイドの方から，湿原を守ることで固有の動植物を守ることになるのだという話を聞きました。牧野富太郎博士の句碑では，牧野博士と八幡との関係や，句碑に書かれている俳句の意味などを教えて頂きました。カキツバタの里では，説明看板に書かれている説明をみんなで読んだり，メモにとったりする活動を行いました。

ウォークラリーの途中には，お弁当を受け取り，思い思いの場所を選んで，おいしく頂きました。

ウォークラリーの最後は，クイズ大会でした。ウォークラリーで学んだ事を出題され，班のみんなで相談しながら応える事ができました。どの班も優秀な成績でした。

○田舎暮らし体験

２泊３日を過ごした民泊家庭では，たくさんの体験をさせて頂きました。畑に栽培されている豆の収穫を手伝ったり，夕ご飯を作ったり，楽しかったようです。

また，普段の生活ではなかなか体験することがなかった木登りをしたことが随分嬉しかったようで，たくさんの児童の感想の中にあがっていました。

それから，今回の体験活動で大切な事を学んだ児童がいました。それは，迎えに来ていただいた民泊家庭のおじさんを見て，「とてもこわそうだな」と思ったのだそうです。しかし実際に生活してみると，「すごく優しくて，ぼくは，人を見た目で判断してはいけないのだな」と思ったのだそうです。

たくさんの体験がそれぞれの子供達の心の中に残って，これからの人生の大きな糧となるのだと感じました。

お世話になった民泊家庭の方々，本当にありがとうございました。

〈 第４日目（１０月１８日)〉　アマゴのつかみ取り　お別れ式

○アマゴつかみ取り体験

この日はあいにくの雨でしたが，大暮養魚場で養魚場の方から命の大切さについてのお話を聞きました。魚をつかまえて食べるということは，生きている命をうばい，いただくことであると教えていただきました。子供達一人一人の心に強く残ったお話でした。

Ｃグループは，雨天でしたが，この時期にしかできない体験をしました。

それは，受精させることです。雌の卵を搾り出し，雄の精子を食塩水の中で受精させるのを見せていただきました。時が経つにつれ受精卵が硬くなっていくことを触って確認しました。

つかみ取りは，大きな水槽の中でしました。アマゴが跳ねたり，手から滑り落ちたりすることを体感できました。

その後，活動班に分かれて，自分たちでおこした炭火でアマゴを焼き，２匹ずつ食べました。秋も深まる時期でしたので，炭火の温かさとアマゴのおいしさでとてもあたたかな時間を過ごしました。

○お別れ式

民泊家庭での体験を翌日には子ども達が生き生きと話していました。そんな楽しい時間もあっという間に過ぎ，お世話になった民泊家庭の方々ともいよいよお別れです。２泊という限られた時間の中での生活体験でしたが，子供達は民泊先の方々の温かい心に触れ，充実した２日間を過ごすことができました。

お別れ式では，笑顔があふれ，「芸北のお父さん，お母さんができたね，また会いましょう」とそれぞれが握手をしたり，写真を撮ったり，別れを惜しみました。

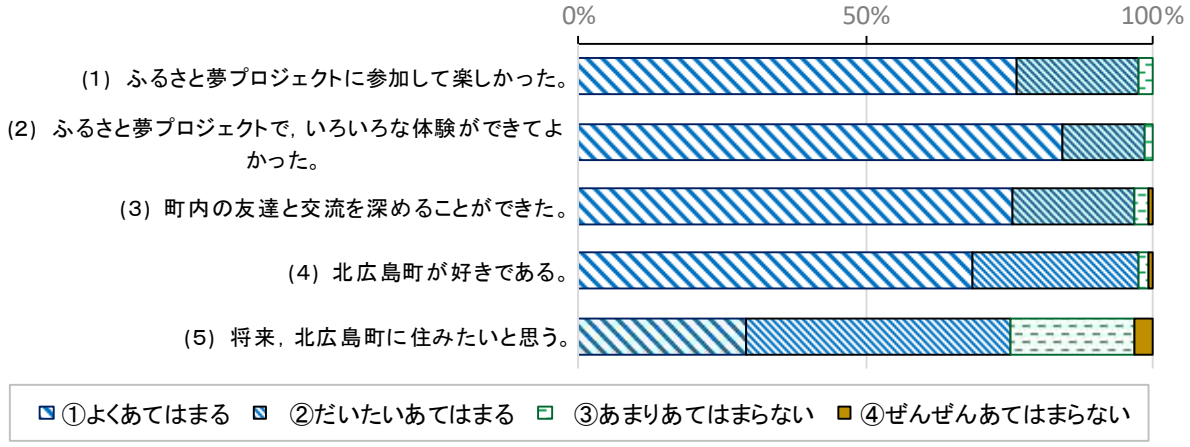
家族の一員として接していただき，思い出の多い２泊３日になりました。　お世話になった民泊家庭のみなさん，ありがとうございました。

３泊４日にわたって行われた「民泊体験」。芸北の地で民泊家庭の方や仲間と過ごし，協力することの大切さを学びました。３校の５年生がとても仲良くなり，秋の深まりを感じる豊かな自然の中で，心あたたまる優しい時間を過ごすことができました。

多くの活動を支え，温かく子供たちを見守ってくださった民泊家庭のみなさん。

本当にありがとうございました！

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（5年）



民泊体験・田舎暮らし体験をして，思ったこと考えたことを書いてください。

芸北小学校

○ご飯をかまどで炊いて食べるとおいしかった。楽しかった。(3)
○今まで経験したことがないこと(藍染・一輪挿し・蕎麦うちなど)をすることができ，北広島町でこのようなことができる事を知った。(2)
○畑作業などをいろいろとさせてもらって楽しかった。
○物づくり体験が多くできた。
○仕事をしっかりとすることができた。
○民泊家庭の方が優しかった。
○みんなでやらないと物事はうまくできないものだと思った。
○農業体験は大変だと思った。

大朝小学校

○民泊家庭でめったにできない体験(魚釣り・ピザ作り・草取り・茶の葉摘み・お茶の鞘剥き・リンゴ狩り・草を集めて田にまく等)ができ，うれしかった。(7)
○リンゴ狩りをしたことがなくて，取り方や種類が知れてよかった。
○芸北のよさをたくさん感じることができた。
○大朝より山に囲まれている土地で，自然の物を使って食事を作るのはとても楽しかった。
○自分が住んでいる所も田舎だから正直意味あるのかなと思っていたが，実際にやってみたら普段できない事もできたし，芸北と大朝では郷土料理や有名な食べ物も違っていたので楽しかった。
○田舎暮らしをしてみて，こんなにすることがあるんだなと思った。
○ご飯を食べる時に配膳が難しいなと思った。ご飯作りも普段しないので難しかった。
○寝る時間が早いなと思ったが，みんなで話をしながら寝たので楽しかった。
○民泊先の人たちが優しくしてくれた。今度また会ったらお礼を言いたい。
○チームのみんなで協力できた。自分から進んで何かをやると，みんなも一緒になってやってくれるか考えた。
○田舎暮らしがいやだったけど，この民泊体験で田舎暮らしが好きになった。

新庄小学校

○とても優しい人だった。 ここにいたいと思った。
○自分の家にはないルールがあり，いつもの自分を振り返ることができたと思う。そのルールを日常に生かしていくことができれば成長につながると考えた。
○自分の家と同じところがあるけど，違うところがほとんどであまり眠れなかった。
○毎日かまどでご飯を炊いていたら忙しいなと思った。餅をはさむ葉を取るときに，とげがささったので難しいなと思った。
○みんなで同じところで泊まるとテンションが上がってとても楽しかった。
○北広島町は自然がいっぱいで土地も広いと思った。豊平には信号機が１つしかないと教えてもらいびっくりした。
○人とふれあい，いろいろなことを学ぶのはとてもよい体験だと思った。

川迫小学校	
○田舎暮らしはこんなに大変なんだなと思いました。 ○民泊家庭で豆をとったとき，自分の家では豆はつくらないので楽しかった。 ○けものが出るのでいろいろ工夫しているのだと思った。	○民泊家庭で，木登りをして，上手にできた。ぼくは木登りがとくいだと思った。 ○民泊家庭の家の人に優しくしてもらった。木登りがこわかった。しいたけの菌を入れるのが楽しかった。
八重小学校	
○田舎ならではの違いを知り，良さや楽しさ，大変さを知ることができた。(11) ○体験やふれあいを通じて，楽しく過ごすことができた。(4)	○民泊家庭の人の手伝いをすることができた。(3) ○野菜や花について詳しくなれた。(2) ○他の学校の人と仲良くなれた。(2)
豊平小学校	
○民泊先での様々な活動が楽しかった。(そうめん流し，里芋掘り，野菜の収穫，木登り)(6) ○将来一人暮らしをするのは大変だと分かった。(2) ○皆と仲良くできてよかった。(2) ○民泊家庭の方が優しかった。(2) ○特に夕食作りが楽しかった。(2) ○昔の人はこんなに大変なことをしていたのだと考えたら，とてもすごいなと感心した。(2) ○ご飯を作る大変さがわかったから，これから家で進んで手伝いをしたいと思った。(2) ○たくさんの人とのふれあいがあって，つながっているんだと思った。(1)	○普段家ではあまりしない料理を作って，作り方がわかった。(1) ○みんなで夕食を食べたことや友達と過ごして仲を深められたので，うれしかった。(1) ○大人になったら，大変な仕事があることがわかった。(1) ○他の土地の人たちが，どういう暮らしをしているのかが良く分かった。(1) ○自然のおかげでできることがたくさんあるんだなと思った。(1) ○同じ町内でも，豊平と違ったものや風景があったことが心に残った。(1)
本地小学校	
○農作業でスギナ取りをした。スギナの根が長く，その生命力はすごいと思った。(4) ○民泊家庭での体験が楽しかった。(4) ○初めての体験(おふろ掃除，コースター作り，布団の上げ下ろし)は，難しかったが最後まで頑張った。(3) ○みんなで話しながら，分からないことは質問しながらご飯を作ったのが楽しかった。(3) ○食事がおいしかった。(3) ○三時草という珍しい植物を見ることができた。(2) ○スギナは家にも生えているので，根がどこまで伸びているのか調べてみたい。 ○スギナの根を切らずにどこまで取れるか競争したのが楽しかった。 ○和牛や羊，ヤギなどを間近で見れて嬉しかった。(2) ○芸北の自然について知ることができた。	○食事作り(シューマイ，ピザ作り)を初めてした。またやってみたいと思った。 ○自分で料理を作ることができて，成長を感じた。 ○また，芸北に行ってみたい。 ○農作業をテキパキこなす民泊家庭の方はすごいと思った。 ○ローラースキーを初めて見た。 ○初めてしたことや知ったことがあった。また来年行きたくなるくらい楽しかった。 ○班長をして，みんなをまとめることができてうれしかった。 ○自分達が収穫したほうれん草がすごくおいしかった。 ○家族とはなれて少し寂しかったけど，民泊家庭の方が優しかったので大丈夫だった。 ○ずっと友達と一緒にいて，みんなの癖や楽しい面が分かった。

八重東小学校	
○いろいろな人に協力していただいて，この体験学習ができたのだと感じた。感謝の気持ちを忘れないようにしたい。(5) ○自分のことや自分の物はしっかりと自分で管理しないといけないと感じた。(4) ○趣味や得意なことなど他の学校の友達としっかりコミュニケーションをとり，自分から声をかけることの大切さを知った。(3) ○作物を一生懸命育てている人がいることを知り，給食など，食材に感謝して食べたいと思った。	○農作業を実際に体験し，とても大変な仕事だということを感じた。 ○天体観測をして，田舎では町の明かりが少ないため，星空がよく見えることに気付いた。 ○普段できないにわとりのえさやりをした。毎日，責任をもって自分がまかされた仕事をすることは大切なことだと感じた。 ○集団行動をするので，時間を守ったり，話を聞いたりすることや自分のことを後回しにしてでもみんなのことを優先することが大切だと思った。学んだことを学校生活に生かしたい。
壬生小学校	
○普段家ではできない体験をさせてくださったので，嬉しかった。(6) ○とても楽しかった。また民泊体験がしたい。(4) ○民泊家庭の方は，とても話しやすくて優しかった。分からないことも丁寧に教えてくださったの で，上手にできた。(2) ○畑仕事などを経験して，野菜を作るのは大変だなと思った。 ○芸北は自然が豊かだなと思った。	○農業体験をさせてもらったのが楽しかった。 ○民泊家庭の近くに住んでおられる地域の方が声をかけてくださったので嬉しかった。 ○自分の家以外で過ごすので，難しいところもあった。 ○家庭ごとに生活の仕方に違いがあることが分かった。 ○民泊が終わったら，もうお世話になったお家の方と会えないから寂しい。 ○自分の住んでいるところとの違いが分かった。

川魚つかみ取り体験・登山をして，心に残っていることはどんなことですか。

芸北小学校	
○グループの人といろいろな活動が協力してできたことが心に残っている。(3) ○最初はあまり話せなかった人とも話せるようになった。(2) ○だいたいの人と話せたこと。 ○みんなで笑いながら話すことができたこと。たくさん話ができて楽しかったこと (2)	○人間関係作りで，自分から十人以上の人と話すことができとこと。 ○ウォークラリーでみんなと協力して時間以内にゴールできたのでよかった。 ○班のみんながとても優しかったこと。
大朝小学校	
○ウォークラリーで班の人と協力でき，仲良くなれてよかった。(5) ○魚のつかみ取りでアマゴの卵が見られてよかった。(3) ○つかみ取りが難しかった。 ○川魚つかみ取り体験で魚をつかみ取りして，調理させていただいたこと(2) ○川に入ってのつかみ取りはできなかったけど，受精するところを生で見れて良かった。(2) ○最後のクイズで全問正解できてよかった。 ○楽しく歩いたり，食べたりできた。 ○魚の内臓(心臓など)見ることができた。 ○これまで魚の身や骨やしっぽや頭を食べていなかったけど，民泊体験をして全部食べれたからよかった。 ○命をいただいて自分達が生きていること。	○芸北のいいところを知ることができた。 ○霧が谷湿原やカキツバタの里など普段訪れても気にならない名所を知ることができた。 ○全チームタイムアウトになったのが一番心に残った。 ○違う小学校のみんなといろいろな体験を通して仲良くなれた。 ○行く道を間違えて時間に間に合わなかった。 ○ガイドさんやいろいろな人からたくさんのことを教えてもらった。 ○広島にこんな場所があり，こんな生き物がいるのかと思った。 ○5km歩いて疲れたし，みんな制限時間に間に合わなかった。 ○協力することが大切だということ。

新庄小学校	
○グループの人や他の学校の違う人とも話せたこと。他の学校の人と親睦を図るのはいいと思う。 ○みんなと仲がよい友達にはなれないと思っていたけど，仲良くなれたこと。 ○力を合わせて協力できたこと。 ○クイズを協力して解いたり，みんなに気を配って休憩したりしたこと。 ○時間には間に合わなかったけどみんなで楽しむことができた。ガイドさんの話を聞き，この北広島町のよさ（自然がきれいなところ）を感じることができた。	○八幡湿原に魚がいたこと。 ○魚がたくさんとれたこと。 ○みんなで協力して炭をおこしたこと。思ったより難しかったけど，話し合い，意見を出し合いながらすることができた。食べながら話をして，仲良くなることができたこと。 ○にじますにえさをやったこと。 ○魚の内臓を取り出すのが少し気持ち悪かったが，きれいに取り出せたこと。 ○湿気が多いところには木が生えないということを教えてもらった。
川迫小学校	
○みんな遅れてウォークラリーをゴールした。(2) ○つかみどり体験で心に残っていることは，魚の内臓とり。 ○はじめてつかみどりをしたので楽しかった。	○ウォークラリーは足が疲れた。湿原がすごく広かった。カキツバタがきれいだった。川魚つかみ取体験は，水がすごく冷たかった。アマゴの塩焼きがおいしかった。
八重小学校	
【川魚つかみ取り体験】 ○班のみんなと協力したこと。(7) ○川魚をつかみ，さばいて，食べるという初めての体験を楽しくできたこと。(7) ○命の大切さに気づくことができた。(3) ○アマゴがつかみにくかったこと。(2)	【ウォークラリー】 ○班のみんなと協力したこと。(8) ○みんなとミッションを頑張ることができたこと。(5) ○自然に触れることができたこと。(2) ○野菜や花について詳しくなれたこと。(1)
豊平小学校	
○班のみんな，他校のみんなで協力できたり，仲を深められたりした。(8) ○他の学校の友達と話したりふれあったりできて，うれしかった。(5) ○ウォークラリーで班のみんなと歩いて，一緒にご飯を食べたり，協力して課題を解決できたこと。(4) ○魚の命をもらって，感謝したこと命の大切さに気付いた。(3) ○川魚のつかみ取りをして，焼いて食べたこと。(2)	○芸北の自然とふれあって，芸北の自然のことが主に知れたこと。(2) ○ウォークラリーをした後の昼食がおいしかったこと。 ○魚がぬるぬるして，つかみづらかった。 ○初めてしたことだから，全て心に残った。 ○今までできなかったことができるようになったことが心に残った。 ○川魚の内臓を取り出すことが印象に残っている。みんなと協力して「無理」と言う人のをやってあげた。
本地小学校	
○アマゴの内臓を取るのが嫌だと思ったが，最後までやりきることができた。(4) ○アマゴがとてもおいしかった。(4) ○ウォークラリーが楽しかった。またやってみたい。(3) ○命の話を聞いて，命の大切さが分かった。(3) ○また，大暮養魚場に行ってみたい。(3) ○ウォークラリーの記録係を頑張った。(2) ○ウォークラリーで芸北の自然についてよく分かった。(2) ○ウォークラリーの係を責任持って行い，成長したと思う。(2) ○ウォークラリーで班の人と協力できた。(2)	○桶ではあったが，つかみ取りができてよかった。(2) ○アマゴの受精卵が時間と共に変化していくのがよく分かった。(2) ○アマゴの下処理や，火起こしを自分達でできたので成長したと感じた。 ○大暮養魚場にはアマゴ以外の魚（レモンサーモン，チョウザメ）を養殖していることを初めて知った。 ○アマゴに刺すくしを上手に刺さないと外れるので，大事だと思った。

八重東小学校	
○他の学校の友達と同じ時間を過ごし，仲を深めることができた。(4) ○ウォークラリーでは，チェックポイント全てを見つけることができなかった。計画をしっかりと立てて行動すればよかった。 ○北広島町の大自然を感じながら歩くことができた。最初は，チームのみんながバラバラな感じがした。最後の方になるとまとまりがでてきたように思う。チームワークが高まってくるほど，いろいろなことができそうだと感じた。 ○ウォークラリーのチャレンジ問題で，全員で歌を歌った。大きな声をみんなで出すことで，チームの団結力が高まった。	○魚をとって，調理して，焼いて食べるという事を全て自分達でしたことが心に残った。 ○なかなか見つからないチェックポイントをやっと見つけて，みんなで喜んだ。 ○声のかけかたやどんな言葉をかけてあげるかで，仲が深まったり，喜びあえたりすることが分かった。 ○アマゴは，石の下に隠れることがわかった。今度からは，石の下などをしっかりと探してつかみたい。 ○全てのチェックカードを皆で協力して見つけ，ゴールしたしゅん間。
壬生小学校	
○他の学校の人と交流することができ，仲が深まったと思う。(11) ○他の学校の友達とも声をかけ合い，協力して最後まで活動できた。(8) 【川魚つかみ取り体験】 ○アマゴを触るのは初めてだったけど，たくさんとれて楽しかった。またやりたい。(4) ○火起こし体験を初めてした。(3) ○命をいただいているということを感じ，命の大切さについて知ることができた。	【ウォークラリー】 ○自然のよさを感じた。(2) ○同じ班の人と協力して時間ぴったりにゴールできたことがうれしかった。 ○同じ班の中にアマゴの下処理の仕方に詳しい人がいて，すごいなと思った。 ○私がミスをした時には，同じ班の人が優しく教えてくれたのがうれしかった。

プロジェクトを終えての「児童作文」

さまたげ見つけの旅

芸北小学校　檜谷 美波

民泊三日目，私は初めて，とっても大切な「さまたげ」に会いました。それは，自分の任せられた仕事に手こずってしまい，みんなに迷惑をかけて，班の友達との間にわだかまりを作ってしまった時のことです。一番仲の良かった女の子ともぎくしゃくしてしまいました。その時，思いつくことは全てやりましたが，全くうまくいきませんでした。私は，「これ以上やったって意味がない。逆にしつこいと思われて，悪い方に行くんじゃないのか。」と，自分に言いわけをしました。

民泊四日目，昨日の自分の言いわけのせいで，班のみんなとの仲は昨日よりひどくなっていると感じました。それで，私は昨日の自分を責めました。この日はアマゴのつかみ取り体験でした。この活動に慣れていて，班のみんなとも仲良くしている友達がものすごくうらやましかったです。

アマゴの内ぞうを取り出す時，一ぴき足りていない事が分かりました。同じ班の子に，とつ然，

「手伝って。」

とうながされました。私はびっくりしました。でも，おかげでいっしょに活動でき，その子との関係が少し良くなりました。私は，その子の積極的な行動に助けられました。

その後，私をとなりに来るようにさそってくれました。いっしょにアマゴの塩焼きを食べました。食べながら，学校でのことなどを話しました。「自分から積極的に話しかけたり，活動にさそったりすれば良かった。」というくやしい気持ちと,「積極的に話しかけてくれたおかげで,話ができるようになってうれしい。」という気持ちが入りまじっていました。

この民泊体験活動から約一ヵ月後の事です。他校の人と交流する機会がありました。私は「積極的に行動する」ことを活かそうとしました。進んで声をかけることで，たくさんの友達を作ることができました。民泊体験活動でうまくできなかったことを再チャレンジすることができたと思います。良かったです。

この民泊活動のテーマだった「さまたげ見つけ」で，私はたくさんの「さまたげ」を見つけました。乗り越えられたもの，乗り越えられなかったものの両方がありますが，見つけた「さまたげ」を乗り越えることができると，すごく自分が成長できたと感じます。だからこれからも，いろいろな活動の中でたくさん「さまたげ」を見つけて，自分を成長させていきたいと思います。

民泊体験活動を終えて感じたこと

大朝小学校　　柏田 穂花

３泊４日の民泊は，とても楽しかったので一瞬でした。私は，民泊体験を終えて成長した３泊４日だったなと思いました。

私は最終日のあまごのつかみどり体験をとても楽しみにしていました。雨で川でのつかみ取りはできませんでしたが，小さい容器の中でさせてもらえてうれしかったです。その後，取ったあまごをくしにさしたり，内臓を取り除いたりしましたが，正直かわいそうで辛かったです。最初に命のお話を聞きましたが，命をいただくってこういうことなんだなと思いました。作業が終わってから，焼いて食べました。私は焼き魚が苦手なので，２匹食べるのは無理かもしれないと思いましたが，食べだしたらとてもおいしくて食べられました。この体験によって，苦手な食べ物が１つへってよかったです。

私は民泊に行く前，民泊先では他校の子と泊まるので「友だちになれるかな」というあせりや不安がありました。でも，２人ともとっても優しくてすぐ友だちになれました。そして，民泊先の方もとても優しい方で安心しました。民泊先にはピアノがあり，泊まった全員がピアノを習っていることがわかり，とてもびっくりしました。みんな上手で，弾きあいっこをして楽しみました。夜ご飯もみんなで作りました。どれもとてもおいしかったけど，その中でも１番シチューとハンバーグがおいしかったです。お好み焼きも食べました。いつも関西風を食べるけど今回は初めて広島風のお好み焼きも食べました。家でもチャレンジしたいと思いました。

一緒にアイスを買ってもらって食べたことも思い出に残っています。

この民泊で，たくさんの方に関わってもらっていることを感じました。そして特に民泊家庭の小川さんにはとてもお世話になりました。私たちのためにいろんな活動をさせてくださったり，思い出を作ってくださったりしました。感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを今後の生活の中で，行動で表していきたいと思います。

みんなで協力できた宿泊体験活動

新庄小学校　　和田 紗昆

９月１７日から２０日にかけて，ふるさと夢プロジェクトで民泊活動がありました。新庄小学校，豊平小学校，八重東小学校の三校で行いました。

ぼくが，この四日間で特に心に残っている出来事は，民泊家庭である中尾さんの家で過ごしたことです。中尾さんの家には天体望遠鏡があり，小さいもので２メートル，大きいもので６メートルもありました。トラブルがあって実際に星を見ることはできませんでしたが，あんなに大きい天体望遠鏡を見ることができてよかったです。中尾さんの家では，かまどでご飯を炊きました。中尾さんは，炊き方などを教えてくれませんでした。だから，自分達でどうしたよいか考えました。失敗すると思ったけれど，成功しました。別の日には，かしわもちも作りま

した。作っていくうちにだんだんなれ，上手になりました。おいしかったです。
ぼくにとってとても良い経験になったことがあります。ぼくは，初めての人と何かをするのが苦手です。けれども，２日目の人間関係作りの時間に他の学校の人たちと頭を使うゲームをたくさんして，仲が深まりました。この活動の前に「三人は名前を覚える。」という目標を立てていましたが，ゲームのおかげであっという間に達成できました。仲良くなるためには，ゲームなどをして，相手がどんな人かを知れば良いのだと分かりました。これは一番の良い経験だったと思います。最終日にはグループ全員の名前を覚えることができていました。
３日目の八幡湿原のウォークラリーでは，道を何度も間違ってしまい，時間に間に合うかとても不安になりました。そんな時，おたがいに声をかけ合って何とか間に合うことができました。会ったばかりのメンバーでも，声をかけ合うことでいろいろなことができるし，友達が多いと良いことがたくさんあるなと思いました。また，北広島町内にこんなに動物や自然があふれている場所があることをぼくはこれまで知りませんでした。これは北広島町の良さだなと改めて思いました。
この民泊体験活動を通して，友達がいれば何でもすることができるということや，友達をつくるには相手のことを知り，一緒に努力するゲームをすると仲が深まるということを学びました。これからは苦手だと思っていても自分から話しかけて，進んで友達をつくりたいと思います。

命をいただく

豊平小学校　　平野 帆夏

私が民泊体験活動で心に残ったことは，生き物はすべてつながっているということです。そのことを知ったのは，アマゴのつかみ取りのときです。その時に，命について深く学びました。
私は，１日目に民泊家庭で，黒毛和牛を食べさせていただきました。しかし，その時は「命をいただいた」ということをあまり意識していませんでした。実際，量が多かったこともあり，残してしまいました。
民泊体験も最終日，アマゴのつかみ取りです。大暮養魚場の方がこんなことを言っておられました。
「肉は牛やぶた，鳥を殺して食べている。野菜は，命があったとは言わない。しかし，生きていたことは，確かだ。」
私は１日目に黒毛和牛をいただいた時，「命をいただいた」ということを意識していなかったなと，思いました。だから，アマゴを食べるときは残さず，できるだけきれいに食べることを意識しました。
私は今まで，人に支えられてここまで大きくなったと思っていました。しかし自分が育つためには，人の支えだけでなく，いろいろな生き物から命をいただき，支えられていたことに気付きました。だからこれからは，食べ物を残さず食べることや，感謝の気持ちを持ちながら食べ物を食べることをこれまで以上に意識していきたいと思いました。

民泊体験活動を通して印象に残ったこと

川迫小学校　　楢木 想志

民泊体験活動が始まる日に買い出しに行きました。牛肉と，バナナとナタデココ，レタスと，ももの缶詰と，パイナップルの缶詰と，ゆでるタピオカと，ブロッコリーと，サイダーを買いました。その後家に帰りました。そして家を出るとき，これから４日間帰れないと思うと，少しさびしかったです。

そして学校に着くと，最初に学校紹介を考えました。その後晩ごはんを作りました。メニューは，カレーとサラダとフルーツポンチでした。カレーはおいしくて，いっぱい食べました。朝ご飯はおにぎりと卵スープでした。

朝食を食べた後は，バスに乗って開会式の会場にいきました。見たことのない人ばかりでとても緊張しました。でも，ゲームなどを通して，少しだけれど友達が増えてとてもうれしかったです。

対面式では，民泊先の宮本さんが来てくださっていました。最初の印象はとても怖そうだなと思いました。しかし，民泊家庭に行ってみると，とても優しかったので，人を外見で決めつけたらいけないなと思いました。

宮本さんの家に着いたあと，家を案内してもらいました。そして近くの山で木登りをしました。ぼくは，6 メートルぐらいしか登れなかったけれど，友達は 10 メートルも登っていたのですごいなと思いました。キノコの菌の植え付けもしました。

次の日は，八幡高原でウォークラリーをしました。ガイドさんの解かりやすい説明のおかげで楽しく学ぶことができました。最後にクイズをして，ぼくの班は全問正解だったので，とても嬉しかったです。みんなで協力して考える事ができたな，と思いました。

そして，宮本さんの家に帰って，流しそうめんをしました。その後に宮本さんの家の庭に真砂土をしくのも手伝いました。その日の夜には将棋をしました。

そして最後の日の朝に，布団をたたんでいなかったので，怒られてしまいました。きちんとしなければいけないな，と思いました。

その日は，魚のつかみ取りの日でした。外に出てみると，雨だったので，魚のつかみ取りは，ケースの中に入っているアマゴをつかむことになりました。それでも十分楽しかったです。けれどぼくが一番心に残ったのは，おじさんの話でした。僕は，今まで何となく「いただきます。」と言っていたけれど大暮養魚場の人の話を聞いて，ぼくたちは，生き物の命をいただいて食べているのだと気がつきました。これまでは，ごはんの時には「いただきます。」と言うものだと思っていたのですが，そのわけを教えてもらったのです。これからぼくは，「本当に命をいただくのだ」と思って，「いただきます。」と言わなければいけないと思いました。

この体験活動を通して，たくさんのことを勉強する事ができたと思います。これからの生活に生かしていきたいです。お世話になった皆さん，本当にありがとうございました。

北広島町のすばらしさ

八重小学校　　益田 美桜

私は，この民泊体験活動をして，北広島町のすばらしさを知って成長して帰ってくることができました。

１日目は，料理の大変さが分かりました。お母さんがいつも，朝，昼，夕の３食を作っていることがすごいなと気づきました。自分たちで協力して作った夕食はとても美味しかったです。

２日目は芸北小，壬生小の５年生と仲良くなりました。自己しょうかいをして自分の得意なことを知ってもらいました。きんちょうしたけど，みんなが笑顔だったのできんちょうした気持ちもなくなりました。班でしたゲームはとても盛り上がり，民泊で不安な気持ちはなくなりました。対面式でのドキドキは今も忘れられません。民泊家庭の方はとてもやさしくしてくださり，そのきんちょうはうそみたいになくなりました。民泊家庭に着くと早速みんなで夕食の準備をしました。そこで，おどろく事がありました。ほうれん草を作っている家庭に泊まったのですが，私たちのためにほうれん草を少し残しておいてくださっていたのです。その優しさが温かいなと感じました。

３日目のウォークラリーでは「協力」をテーマに班で活動しました。私は記録係でした。班のみんなのためにたくさんのことをメモしました。ところが，ガイドさんの話を聞くときにいくつか聞きのがして，メモが取れなかったことがありました。そのときに班の人が優しく教えてくれました。班のみんなで協力することが実感できた場面です。また，歩いていると千代田ではあまり見ない動物や草花がたくさんありました。すばらしい自然がたくさんあるなと感じました。そのあとに行われたクイズ大会でも，たくさん協力して１問以外全て正解することができました。そして，民泊家庭にもどって川遊びをしました。こけてびしょびしょになったけど，こういう体験も楽しいなと思いました。

４日目の川魚つかみ取りでは，命の話をしてもらいました。この話を聞いていつも命をいただきながら生活していることを前より考えるようになりました。魚をつかまえるのは大変だったけど，みんなと協力して食べたご飯はとてもおいしかったです。そして，お別れ式では友達，民泊家庭の方とのお別れでした。思い出がたくさんでお別れするのは悲しかったですが，いっしょうけんめい笑顔で見送りました。

私は，この体験を通して，人々の心の温かさ，たくさんの自然があることを知りました。いい友達といい民泊家庭に泊まることができ，よかったなと思います。北広島にはすばらしいこと，もの，人がたくさんいることをよく知ることができました。

「この北広島町のよさはいつまでもかがやき続けてほしい。」

心のなかでそうつぶやきました。

北広島町のよさを知ったよ

八重東小学校　　山中 花心

民泊体験活動をする前から気になっていたことがあります。それは，「どうして民泊体験をするのだろう」ということです。そのことについて先生に聞いてみると，

「ふるさとの良さを感じるということだよ。」

とおっしゃっていました。わたしは，４月に八重東小学校に転校してきたばかりです。そのため，北広島町のよいところがあまり分かっていませんでした。だから，１つでも多くこの北広島町のよいところを見つけて帰ろうと思いました。また，安全で楽しい民泊体験活動にするために民泊家庭の方にめいわくをかけないようにしようと決意し，民泊体験活動にのぞみました。

１日目は，八重東小学校で宿泊をしました。５年生 27 人で初めての宿泊です。特に心に残ったのは，カレー作りと集団づくりゲームです。班のメンバーで計画を立てて，調理したり協力してゲームの課題に挑戦したりして，クラスのきずなが深まったように感じました。

２日目は，人間関係づくりをしました。その中では，新庄小学校と豊平小学校の５年生といっしょに様々なゲームをしました。また，民泊家庭の方との対面式もありました。初めての出会いがたくさんあり，最初はとてもきんちょうしました。初めはあまり言葉が出なかったけれど勇気を出して自分から話しかけてみるとどの人も笑顔で接してくれたので，だんだんきんちょうがほぐれていきました。どの人も優しく接してくれてうれしかったです。

３日目は，活動班でウォークラリーにチャレンジしました。クラスの友達は芸北高原の自然館を知っていましたが，わたしは知りません。どんな場所なのかわくわくしながら向かいました。着くとそこは大自然に囲まれた場所でした。ウォークラリーでは，たくさんの課題を班の人と協力して解決しました。自然や動物に関するクイズもあり，芸北高原について少しくわしくなったような気分になりました。北広島町の自然には多くのみ力があることを知りました。

４日目は大暮養魚場に行き，まず，命についての話を聞かせていただきました。人間が生きるためには，動物などの命をいただく必要があります。だから，その命に感謝し，何でも残さずに食べようと思いました。次に，魚のつかみどりをさせていただきました。簡単だろうと思っていましたが，魚が素早くてなかなかつかまえられません。魚も生きるために必死に逃げているのだと感じました。そして，魚を調理して食べました。今まで以上に身を残さずに感謝して食べることができました。

民泊体験活動の最後には，民泊家庭の方とのお別れ式や民泊体験活動の閉会式がありました。わたしは，さみしい気持ちでいっぱいでした。それは，いろんな友達と協力して仲良くなったり，民泊家庭で多くのことを経験させてくださったりして思い出がたくさんできたからだと思います。この民泊体験活動で見つけた北広島町のよさを大切にして，これからもよさを見つけて増やしてい

けたらと思います。そして，ここで学んだことや成長したことをこれからの学校生活に生かしていきます。

協力する大切さ

本地小学校　　渡邉 美桜

私は，この民泊体験を通して一つ知ったことがあります。それは,「協力をする」ことです。この民泊体験では,協力する場面がいくつもありました。

まず,一日目のカレー作りでは，道具や具材を用意して「〇〇持ってきて。」や「〇〇を〇切りで切るよ。」などの声かけをしながら，手際よく，協力してカレー作りができました。協力すると，こんなにも早くカレーが作れるとは思っていなくて，驚きました。

次は，三日目のウォークラリーです。私は，記録係をやりました。他にも記録係を二人決めて，ウォークラリーをしました。四つのチェックポイントでガイドさんの話を聞いたり，石碑を見たりして，他の二人の記録係と協力して記録しました。ウォークラリー後のクイズでは，間違えてしまったけれど，協力すると自分が書きそこねたところを他の記録係が書いてくれていたので,ほとんどのクイズが解けました。

それから，アマゴのつかみどりがあります。火おこしでは，グループの人とがんばって火をおこしました。用意されていた木材や植物，炭を入れて火加減を調節しました。

最後に田舎ぐらし体験では，メンチカツやばら寿司，ぎょうざを一緒に泊まったみんなと協力して作りました。倉田屋さんに泊まらせてもらって，好物まで出てきたので，とてもうれしかったです。

今回，民泊体験で必要になった「協力」は，さまざまな場面で役に立っていました。カレー作り，ウォークラリー，アマゴのつかみどり，田舎ぐらし体験・・・。協力する体験を通して，私は，コミュニケーション能力が高くなった気がしました。そのため，苦手だった人間関係づくりも，自信が持てるようになりました。

アマゴのつかみどりの時，大暮養魚場の方がしてくださった「命の話」も大切なことだと気づきましたが，私は民泊の大きな目的は,「協力する大切さ」にあったのだと気づきました。私は，これからも仲間と協力し合って，生活しようと思います。

思い出たくさんできた民泊

壬生小学校　　細居 祐汰

「お世話になるお家は，どんなところだろう。」
と，ぼくは民泊が始まる前，そう思っていました。

１日目は，みんなで協力して夕食のカレーを作りました。協力して作ると，時間内においしいカレーを作ることができ,協力して活動することの大切さが分かりました。ねる前には，みんなで「こん虫すごいぜ」という番組を見てからねま

した。

２日目は，バスに乗って芸北文化ホールへ行きました。着くと，たくさんの人がいたので，「友達になれるかな。」と思って，少し不安になりました。けれど，人間関係づくりのゲームのおかげで，他の学校の人とも仲良くなれました。特に仲良くなれたのは，フラフープくぐりゲームです。なぜなら，班の友達と協力して速くフラフープをまわそうと，がんばったからです。その後，民泊家庭の岡田さんのお宅へ行きました。岡田さんのお宅では，犬のジョンと黒毛和牛三頭と何びきものコイを飼っておられました。着いてからすぐに，犬のジョンの散歩をしました。同じ班の人と楽しく話をしながら歩いていると，近くの田んぼに牛が放牧されていて，びっくりしました。次に，野菜の収かくをしました。ナスとにんじんを収かくしました。みんながお風呂に入っている間，岡田さんがナスとにんじんを天ぷらにしてくださっていました。とれたての野菜は，とてもおいしかったです。夜ご飯の時には，岡田さんが三つの大切なことについて話してくださいました。一つ目は，「朝ご飯をしっかり食べること」です。朝ご飯を食べることで，勉強もよくできるようになるそうです。二つ目は，「英会話をがんばること」です。いつか外国の方と仕事をしたりすることがあった時に，上手にコミュニケーションをとれるからです。三つ目は，「元気で過ごすこと」です。元気で過ごせば，やりたいことは何でもできるし，いろいろなことにチャレンジできるからです。ぼくは岡田さんのこのお話を聞いて，これからの生活に生かしていきたいと思いました。

３日目のウォークラリーは，みんなで協力して時間ぴったりにゴールできました。ウォークラリーでは，芸北には熊やヘビ，鳥などの生き物がたくさんいることを知りました。一番楽しかったのは，班の人と一緒にお弁当を食べたことです。班の人と話しながら食べるお弁当は，いつもの何倍もおいしかったです。岡田さんのお宅へ帰ってからは，つりをしました。二十一ぴきもつれました。夜は，みんなで今日一日にあった楽しかったことを話しながらねました。

４日目の朝は，岡田さんのお宅でコースターを作りました。のこぎりで木を六角形に切って，全体をやすりでこすりました。そして最後にガスバーナーで，こげ目をつけて完成させました。初めて作ったので，今も大切に保管しています。大暮養魚場では，アマゴのつかみ取りをしました。さっきまで生きていたアマゴを取って食べることは，命をいただくということです。生き物の命をいただいて，自分のエネルギーにするということで，命の大切さが分かりました。これからも食べ物は大切にしていきたいです。

ぼくは，この四日間で，たくさんのことを学びました。一番の学びは，みんなで協力し合うことの大切さです。協力し合うことで，できないと思っていたことも，みんなで助け合ってやれば，どんなこともできるからです。これからの生活にも生かしていきたいです。

6　年　生

夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう

北広島ふるさと夢プロジェクト事業（６年生）実施要項
～「夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう」～

１　日　時　　令和元年１０月２４日（木）　９：３０～１４：１０
　　場　所　　千代田運動公園（総合体育館　多目的広場）
　　〒　731-1514　広島県山県郡北広島町壬生 10500　℡　0826-72-8822

２　目　的
　○植松電機 植松努代表取締役の講演を通して，夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
　○ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して，科学への興味関心を高める。
　○ロケット製作・発射の共同体験を通して，町内の児童間の親睦を図る。

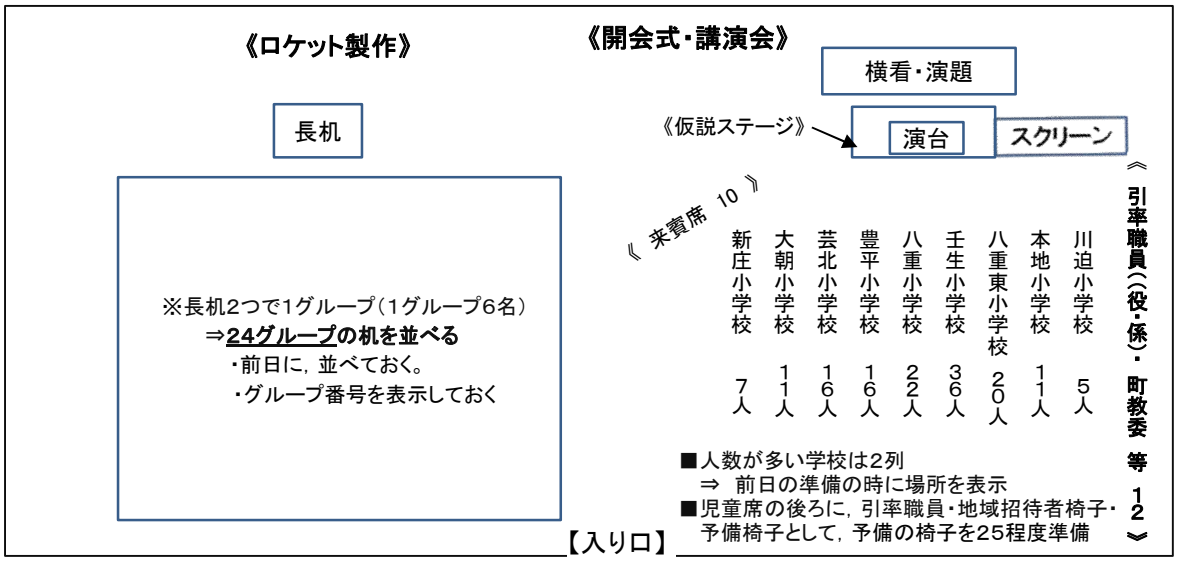
３　対象児童　小学校６年生

	芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男子	7	5	2	2	１３	１０	２０	9	5	７３
女子	9	6	5	3	9	１０	１６	2	１１	７１
児童数	16	１１	7	5	２２	２０	３６	１１	１６	１４４
引率者	3	2	3	1	3	2	3	3	2	２２
計	１９	１３	１０	6	２５	２２	３９	１４	１８	１６６

※養護教諭は，豊平小学校より「寺川養護教諭」が参加する＜救急対応グッズ持参＞。

４　日　程
（１）各学校より会場への集合（事前に，バス会社と出発時刻・場所等を確認する）
　①芸北小〔8:15 発〕→豊平小〔8:45 発〕→千代田運動公園[9:15 着]
　　＜大型バス－総企バス＞（児童３２名＋職員４名）
　②大朝小〔8:10 発〕→新庄小〔8:25 発〕→川迫小〔8:40 発〕→千代田運動公園[9:00 着]
　　＜中型バス－大朝交通＞（児童２３名＋職員６名）
　③八重東小〔8:25 発〕→八重小〔8:45 発〕→千代田運動公園[9:00 着]
　　＜大型バス－大朝交通＞（児童４２名＋職員５名）
　④本地小〔8:20 発〕→壬生小〔8:35 発〕→千代田運動公園[8：50 着]
　　＜大型バス－壬生交通＞（児童４７名＋職員６名）
（２）全体会･活動の流れ
　各学校よりバスで総合体育館に到着後，２階の観覧席に荷物を置いて（講演会側の前・後ろは空けておく
　　－地域・保護者の方が参加されることを考えて），１階のフロアに集合する。
　※芸北小・豊平小は，到着時刻が遅くなることも考えられるために，入り口付近は2校のために空けておく。
　　早く到着した学校は，できるだけ奥より詰めるようにする。
　□持参した屋内シューズに履き替えて二階へ（靴はビニール袋等へ入れて持っておく）
　□何も持たずに１階へ。講演会はメモなどを取らない。お茶もフロアでは飲めない。

◆開会行事（９：３０～９：４５）－総合体育館（講演･ロケット作りも）
　＜司会進行－梅田教諭（川迫小）　サブ－河野教諭（八重小）＞
　児童の並び（開会式・講演会は椅子に座って）



【流れ】

①開会挨拶（応援隊隊長 or 副隊長）　※町教委が連絡調整をする。
②校長代表挨拶（担当校長代表〔佐々木校長－八重東小〕）※講師紹介を含む
③来賓紹介（司会進行）

◆植松電機の植松 努代表取締役講演会（９：５０～１０：５０）
メモなどは取らずに，開会式の並びで講演を聞く。

◆休憩（１０：５０～１１：００）※トイレ，水分補給等

◆ロケット製作（１１：００～１２：００）
ロケット製作をするグループ机に移動して，指導を受けて製作（グループ表示あり）。
児童の準備物は特になし。
職員は，自分の学校の児童を中心に関わり，必要に応じて製作の支援をする。
製作後，講師を囲んで記念写真－体育館の二階より撮影（町教委）

※昼食・休憩・移動－学校ごとにアリーナの二階で弁当を食べる。
引率職員（できれば各学校１名）は，早めに弁当を食べて事前指導を受けて，講師のロケット点検に協力する。

◆ロケットの打ち上げ（１３：００～１４：００）－多目的広場－
帰りのことを考え，荷物を持って指示される場所に集合する。
職員は，安全に発射できるように児童に指導したり役割分担の仕事をしたりする。（児童は４グループに分かれる予定）

◆閉会行事（１４：００～１４：１０）－多目的広場－　　※学校ごとに集合し並ぶ
①閉会挨拶・謝辞（担当校長代表〔大丸校長－新庄小〕）
②児童代表挨拶〔八重小学校〕
※植松電機(株)　植松先生に最後に挨拶をしていただく（事前に確認する）

※閉会式後，バスのグループごとに学校へ帰る。１４：３０を目安に千代田運動公園を出発する。

◎雨天のために，ロケットの発射ができなかった場合は，弁当を食べて１３：１５を目安に千代田運動公園を出発して，学校へ帰る。学校で，後日ロケットを発射する。

５　会場・準備物等

（１）開会式・講演会

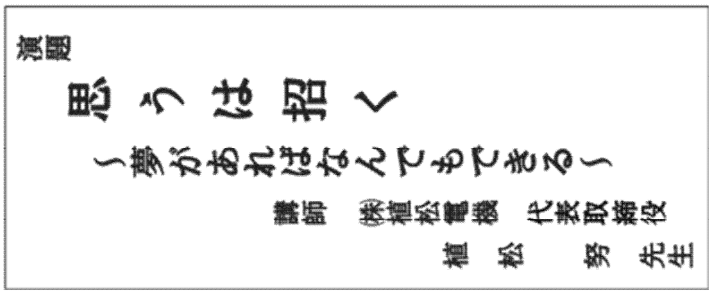
【町教委】

○横看板

北広島ふるさと夢プロジェクト（小６）

夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう

○演題



○演台（パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台）
○プロジェクター　○スクリーン　○パソコンと接続出来る音響用スピーカー　など
パソコン（マック）は持参される。
植松電機が指定している内容を確認して，準備をする。〔昨年度と同様〕

【千代田運動公園総合体育館】

○音響装置（マイク･スピーカー　等）　○椅子－１８０脚程度

（２）ロケット製作

【町教委】

○長机－５５台

製作に使用する道具が６人１セットで用意されているため，６人が向かい合わせで１つのグループ（２台で１グループ）になるようにテーブルを配置する。

＜２４グループ⇒４８台　準備用の机も必要なので，最低で５５台程度必要＞

⇒必要に応じて，他より持って来ていただくようにお願いする。

○マジック〔油性〕

■黒１４４本－児童一人に一本　＜町教委が購入＞

【学校】

○グループ分けの確認

「共有フォルダ」内に，９月中に各学校の児童名を入力する。

※事前に児童に，グループ番号を知らせておく。

○マジック〔油性〕を持参（色が６色等セットになっているもの）

■６色等がセットになっているマジック〔油性〕

－グループごと最低で２セット，全体で最低４８セットは必要。

「共有フォルダ」内に，学校ごとに持参できるセット数を，９月中に入力する。

※箱・一本ごとに学校名を書いておく。

（３）ロケットの打ち上げ

【町教委】

○安全な発射，多目的広場の安全確保のためのサポート員（１０人程度）

○スイッチを乗せる台（４台）を，運動公園（陸上競技場）より借りる。

（４）予算･会計

【町教委】

《植松電機》

○モデルロケットキット代（消費税別）

小学生以下・・・2,800 円／ １人　１４４人分

○交通費，宿泊費は別途支払い。交通費については実費ではなく，会社規定の往復料金が必要。（後日にまとめて請求あり）

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

6　報告書作成について

○実施後に，ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために，アンケートを実施する。アンケートのデータは，「共有フォルダ」の中にある。

【実施後のアンケートについて】

学校ごとに集計・集約して， 11 月 22 日(金)までに「共有フォルダ」に入力する（12 月に発行する夢プロ便りの資料とするため）。

※講演会の内容，講演会・活動の様子は，12 月 13 日（金）を期限の目安とする。

○次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい，実施計画

講演会の内容，ロケット実施の様子

＜写真入りで，概要をまとめる＞

児童の作文＜各学校－１人　４００字原稿用紙で２枚程度＞

実施後のアンケート結果

【分担等】

◆プロジェクトのねらい（八重東小）

◆講演会の内容－Ａ４で，２～４枚程度（本地小）

※担当学校の八重小・川迫小・新庄小・本地小で事前協議をして決める。

講演会・活動の様子－写真入り，Ａ４で４枚程度にまとめる。（八重東小）

◆記録用写真撮影
報告書担当校（八重東小）でも写真を撮るが，各学校で撮影されたものを後日，データを情報提供していただくこともある。町教委にも撮影をお願いする（全体の記念写真を含む）。
◆作文（各学校）
学校ごとに指導して作成ー作文をパソコン入力して，「共有フォルダ」に入れる。
※様式は，「共有フォルダ」の中にある。１２月末を目安に入力を終える。

7　役割分担など
担当学校を中心に分担。
○植松電機・講演講師との渉外（町教委・豊平小＜佐々木＞）
○講師の昼食　弁当〔２食〕の準備（町教委）
○バス会社と連携（町教委）ー対応済みー
※各学校で事前に，乗車場所・時刻等について確認の連絡をバス会社にする。
○教育委員会届出・保護者通知（各学校）
→保護者通知は，９月２７日(金)を目安に学校ごとに配布する（データは共有フォルダ内）。
○会計（町教育委員会）
○全体会に関わって
◆全体会進行＜梅田教諭（川迫小学校）　サブー河野教諭（八重小）＞
※事前に進行細案を提示
◆開会式挨拶＜佐々木校長〔八重東小〕＞
◆閉会挨拶・謝辞＜大丸校長〔新庄小〕＞
◆児童代表挨拶（閉会）＜八重小＞　※　記録写真＜津田教諭（八重東小）＞
○全体総括・事務局（八重東小ー佐々木）＜夢プロ便りー（八重東小）＞

8　その他
○プロジェクトの趣旨を踏まえて，児童に目的意識を持って参加させるようにするとともに，安全な実施ができるように事前に各学校で指導をしておく。服装は通常の通学服など。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具＜傘と，あればカッパ・レインコート等＞を持参する。
○保護者は，２階席で講演会を視聴することができる(保護者通知にもそのことを記載)。参加者数等の集約は必要ない。ロケット打ち上げも参観自由(スタンド)であるが，ロケット製作に関わっては，フロアへの立ち入りを遠慮してもらう。
○特別な支援を必要とする児童，健康に留意する必要のある児童については，事前に保護者と連携をしておくとともに，引率職員体制について配慮する。
○前日の２３日（水）１６時より，会場準備等を町教委職員といっしょにするので，各学校１名以上の職員が参加する。町教委は，午後より準備をされている。
⇒依頼の文書は，町教委より送付される。
○参加する養護教諭については，想定される擦り傷などに対応できるように，応急措置ができるように準備をしておく。

「夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう」の活動の様子

北広島町が主催する町内の小学校６年生（144 名）を対象にした事業“北広島ふるさと夢プロジェクト「夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう」”が，今年も千代田運動公園で開催されました。

この事業は，「植松電機の代表取締役の植松努先生を招いて，夢と希望を持って努力することの大切さについて講演をしていただくとともに，モデルロケット作りをし発射させる」という夢と感動がいっぱいのプロジェクトで，５年目を迎えます。植松先生は，本町で進めている「将来のふるさとを担う人材を育てる」という取組の趣旨に共感され，遠路，北海道より北広島町に来ていただいています。

開催日の 10 月 24 日（木）は小雨が降り，ロケットは試験発射のみで，製作したロケットを児童が発射させることはできませんでしたが，植松先生の講演会，ロケット製作，ロケット試射の様子について紹介します。製作したロケットは，各学校で全校児童の前で発射をすることになりました。

小雨の中で「ロケット試射」

雨雲を突き破る勢いでロケットは大空へ

発射（ロケットエンジンに点火）

噴煙を上げて，あっという間に 100mの高さに

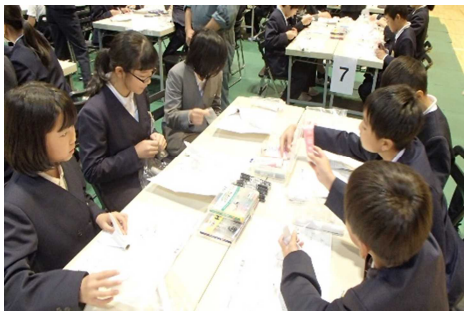
期待を込めてカウントダウンの大合唱。「3，2，1，発射」の合図で，白煙を上げロケットが打ち上がりました。発射ボタンを押すとロケットエンジン（火薬）に火がつき，0.3 秒で時速 200kmを突破し高さ 100mに届きます。大歓声と拍手が沸きあがりました。児童は目を輝かせながらロケットの軌跡を追っていました。

製作したロケットは，基本的には宇宙へ打ち上げられるものと同様です。児童は，各学校でのロケット発射に思いを馳せて，帰宅の途につきました。

ロケット製作

基本的に，自分達の力だけで製作。最初は，説明書とにらめっこ。時間が経つにつれて，質問し合ったり協力し合ったりする様子が，多く見られるようになりました。

ロケットが形になるにつれ，笑顔も多くなり，学校を越えた友達の輪を広げることができました。最後は，色付けをしてロケットの完成です。



植松努先生講演会　演題「思うは招く～夢があれば，なんでもできる～」

植松先生は，小さい頃からの夢であるロケット製作を実現するために，ロケットとは関係のない小さな会社で夢と希望を持ってロケット作りを始められ，その後，幾多の困難を乗り越え，民間では偉業ともいえる宇宙を飛ぶロケット開発を成し遂げられました。自分の半生を振り返り，笑いあり感動あり，そして人としての生き方について考えさせられる，楽しく分かりやすい心に残る話をされました。

○失敗はデータ。自分を責めてはいけない。乗り越えたら力になる。失敗を避けると成長できなくなる。考えられなくなる。失敗は，何でだろう？だったらこうしてみたら？で力になる。進んでいろいろなことにチャレンジしてほしい。
○夢とは大好きなこと，仕事は人の役に立つこと。大好きなことが人の役に立つようになったら，夢が仕事になる。夢はたくさんあった方がよい。やったことがないことをやると自信が増える。失敗した時は自分を責めずへこまないで，ただ今，成長中と思ってほしい。
○“どうせ無理”は，やったことがない人が言う言葉。みんなには，すごい才能がある。大人が言う昔の普通とか常識だけであきらめないでほしい。皆さんは未来しか生きることができない。頑張って自分の未来をつかんでほしい。

児童アンケート結果

参加した児童は，「参加してよかった→98.6％」「講演は夢と希望を持つことができるよい話だった→99.3％」「町内の友達と楽しくロケット作りをすることができた→87.0％」という思いを持っています。非常に高い満足度でした。まさに，夢と感動の体験をすることができました。

【参加した児童の感想（心に残ったこと）】

〔**講演会**〕○夢を持ち続け，努力することが大事だということを知りました。「無理」「めんどくさい」など，気持ちが落ち込む言葉はつかわないようにします。「ちがう」は「すてき」なので，否定されても落ち込まず，すてきと思えるようにしたいです。○「失敗はデータ」という言葉に，私は失敗はいけないことではなく，チャンスという前向きな言葉をかけてもらい，自信を持つことができた。○自分が生きてきた中で，このお話が一番思い出になった。人生のお守りになった。「どうせ…」や「むり…」などを言わずに，あきらめずに自分の夢に向かっていきたいなと思いました。自分のできることを考えて積極的にやりたいと思いました。○夢と希望を持つことができた。植松さんは話がとてもおもしろかった。自分の絶望的な状況でもあきらめずに生き抜いて今の自分があるんだというメッセージが伝わった。周りから何を言われても強い思いを持って，夢をあきらめずに生きようと思った。等

〔**ロケット製作**〕○ロケットを作る時に助け合いながらできた。知らない人と友達になれたのでよかったです。○分からないことがあれば，教え合って，協力して，完成したロケットを見ると，「やりきった」という気持ちがたくさんわいてきてうれしかったです。○ロケット作りをして，町内の小学校の人と協力してできた。難しくて，困っていたときは，近くの人が「大丈夫」と話しかけてくれて，少しだけど，仲が深まった。　等

講演会　　宇宙へとばせるロケットづくり「思うは招く」
～夢があればなんでもできる～

講師　　植松電機株式会社　代表取締役　植松　努　先生

すてきな夢を持つこと

皆さん一人一人には無限の可能性がある。だからこそ，すてきな夢をたくさんもってほしい。しかし，夢の実現に向けて，様々な不安があるだろう。けれども，不安の向こうに喜びがあるのだ。その喜びを味わうために他者の助けが必要なこともある。

人の出会いには意味があり，足りないことがあるからこそ助け合うのだ。だから，人を助けるには，観察すること，予測すること，自分ならどうするか考えることが大切である。つまり，人を助けるために必要なものは，「おもいやり」と「やさしさ」である。また，人と違うことをすると必要とされることが多い。「違うということ」が「素敵！」となれば，奇跡を起こし，夢の実現につながるのではないだろうか。

失敗はデータである

人と違うことはやったことがないことが多い。やったことがないことをすると失敗をする。しかし，失敗はデータであり，乗り越えたら「力」となる。

「何もしない。」「できることだけする。」「言われた通りにする。」そうすれば，失敗はしないだろう。けれども，失敗をさけると，「何もできなくなる。」「成長できなくなる。」「考えられなくなる。」のだ。失敗を自分のせいにしてはいけない。「なぜ失敗したのだろう？だったらこうしてみたら」と考えることで力になる。やりたいことを，やったことがない人に相談すると，できない理由を教えられる。

しかし，頑張れない人，できることしかしない人，考えない人が増えている。だからこそ，考える人が必要になる。是非，やったことがないことを，「やりたがる人」「あきらめない人」「工夫する人」になろう。生まれたときから，あきらめ方を知っている人はいない。あきらめないためには，自分の夢をどんどんしゃべろう。やりたいことは，やったことがある人としゃべろう。わかってくれる人に出会えるまで，しゃべり続けよう。まずは本を読もう。

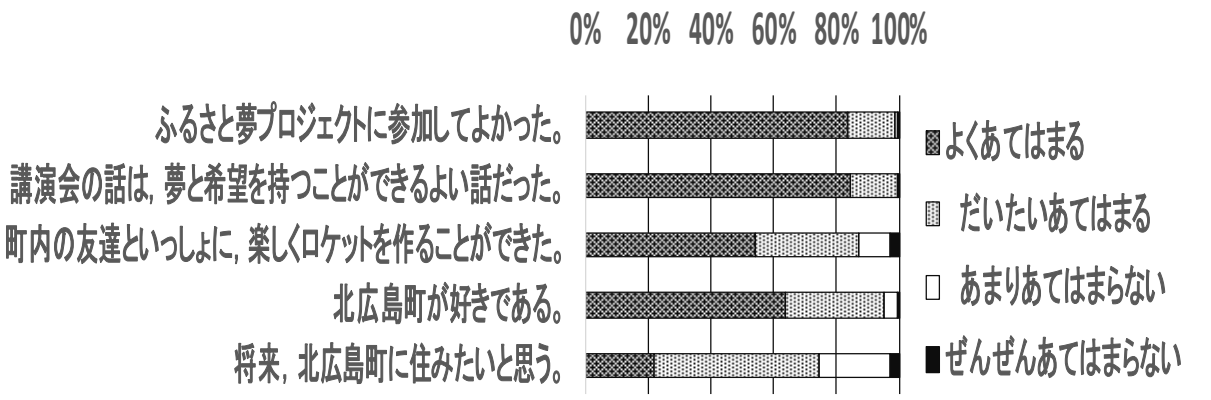
大好きなこと　やったことがないことに挑戦しよう！

ぼくは，小さい頃，おばあちゃんに「お金は値打ちがかわってしまう。だから，お金があったら本を買いなさい。」と言われた。そこで，いろいろな本に出会い大好きなことを見つけた。大好きなことは人生のパワーになる。だれも自分の未来はわからないのだから，未来をあきらめる理由はない。好きなことは，「なかまを増やす」「力を増やす」「可能性を増やす」ことにつながる。

自信がないというのは，「何をしていいのか分からない」，「何ができるかわからない」からである。「どーせ　むり」ではなく，「だったらこうしてみたら」と考え，やったことがないことをやると，自信が増す。「苦しい」と思わず，「ただいま成長中」と思ってほしい。そんな気持ちで，どんどんやったことがないことに挑戦してほしい。

最後に「思うは招く」，だったらこうしてみたらという発想で夢を叶え，自分の未来をつかんでほしい。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（6年）



講演会の話についての感想や思いについて	
芸北小学校	
○私も，将来やりたいことがあります。でも，それに向けてがんばっても失敗することがあって，そのたびに，もう無理，もうダメと思っていたけど，失敗して，それでも挑戦することで成長できると知ったので，チャレンジしていこうと思います。 ○植松さんの話を聞いて，自分がやりたいことやなってみたいものに興味を持って努力すれば，夢はかなうことが勉強になった。周りの人からマイナスな言葉を言われてもあきらめずにがんばれば，夢がかなうことも知ったので，私も興味があるものはしっかりやってみようと思った。	○ぼくも，植松さんのようにたくさん夢を持って，自信を持って夢をたくさんの人に話して，同じような夢を持っている人と出会いたいと思いました。 ○私は，植松さんの話を聞いて「自信を持ってやり，失敗してもはずかしくない」ということが一番心に残っています。私は，あまり授業などで自信が持てず，人に発表を任せてしまうことがありますが，これからは，失敗してもいいから，まず，自分の考えを自信を持って発表してみたいなと思いました。 ○「どうせむり」じゃなくて，「どうしたらできるか」を考えられる人になろうと思います。
大朝小学校	
○夢と希望を持つことができた。植松さんは話がとてもおもしろかった。絶望的な状況でもあきらめずに生き抜いて今の自分があるんだというメッセージが伝わった。周りから何を言われても強い思いを持って，夢をあきらめずに生きようと思った。 ○植松さんの話を聞いて，自分の未来のありかたについて考えることができた。自分の将来のことについて真剣に考えていこうと思った。	○夢や希望をもつことについて楽しく，分かりやすく話をしてくださり，面白かった。趣味は，たくさんあったほうが夢につながることを初めて知った。夢を言葉に出しながら頑張っていこうと思った。 ○あきらめない事や，頑張りたいことが夢の実現につながることを知った。できないこともあきらめなかったらきっとできると信じて，できないと決めつけずに，頑張りたい。絶対できる！と考えたほうが楽しい。
新庄小学校	
○自信と夢を持つことができました。 ○夢をかなえるには，優しさが必要だと知りました。	○「失敗をおそれるな」という言葉が印象に残った。
川迫小学校	
○夢をあきらめなくてもいいという言葉が，自分に自信を持たせてくれた。 ○夢はかなうという事を知ることができてよかった。 ○夢は1つじゃなくていいという事がわかった。	○夢を最初からあきらめずに，努力してがんばろうと思った。 ○夢をいろんな人にけなされても，夢や自分がやりたいことを最後まであきらめずに続けたら，大人になっていろいろできるので，いいなと思いました。

八重小学校	
○講演の内容全てを，楽しく聴くことができた。 ○人の大切さや，あきらめないことの大切さを，改めて知ることができて，とても勉強になった。 ○夢と希望の大切さを学ぶことができた。 ○周りは気にせず，がんばって自分にできることをしようと思った。 ○命の大切さを，改めて実感することができたので良かった。 ○これまでで一番，夢と希望をもつことができる話だった。 ○人は失敗するものだ，必ず夢をもつことが大切だ，とおっしゃっていたので，すごい話だと思った。	○自分にはまだ夢が無いけれど，話を聞いて少し考えてみようと思った。 ○夢は諦めなかったら叶うのだなと分かった。 ○諦めずに一生懸命やることの大切さを学んだ。 ○「自分の夢をばかにされても気にしない」とうい言葉が心に残った。 ○死なないという条件を守って，また植松先生に会いたい。「思うは招く」 という言葉は，励みになった。 ○夢をあきらめずがんばりたい。

八重東小学校	
○あきらめないことの大切さを学ぶことができました。これからも，何事もあきらめず，挑戦していきたいです。 ○自分が生きていく中で，このお話が一番思い出になった。人生のお守りになった。 ○不安の先には，喜びがあるということが分かった。 ○失敗はかっこ悪くない。人間はぶっつけ本番でやっていると分かった。 ○今までは，普通に「どーせむり」と思って，あきらめたことがあったけれど，話を聞いて，何でもあきらめずにしようと思った。今までも，失敗はいいことと思っていたけれど，話を聞いて，もっと失敗はいいことだと思った。	○失敗は間違いではないことを改めて学ぶことができました。 ○「挑戦しないと成功をしない」という言葉が心に残っている。 ○「失敗はデータ」という言葉に私は，失敗はいけないことではなく，チャンスという前向きな言葉をかけてもらい，自信を持つことができた。 ○今まで，好きなことをあきらめようとしたことが何度かあったけれど，植松さんのお話を聞いて，「あきらめなくてよかった。」と，改めて思った。だれに何を言われても，好きなことを前向きに，一生懸命向き合いがんばろうと思った。 ○小さい時に，いじめとかにあって，それでもにげずにがんばっているところに感動しました。

壬生小学校	
○ぼくは，運動や勉強は苦手だけど，植松さんの話を聞いて，好きなことや得意なことをのばして，大反対されても努力をしていけばいつかは認めてもらえるのかなと思いました。ぼくは，植松さんのようになれないかもしれないけれど，自分なりにがんばっていきたいなと思いました。 ○植松さんのお話を聞いて，とても勉強になったなと思います。なぜかというと，「不安の向こうがわによろこびがある」という言葉が心に残ったからです。私も不安をおそれてチャレンジできないことがありました。だけど，不安の向こう側によろこびがあることを知って，不安をおそれず，チャレンジしていこうと決心がついたからです。他にも，「人の出会いには，意味がある」や「人はたりないからこそ協力する」という言葉が心に残りました。	○夢をもちつづけ，努力することが大事だということを知りました。「無理」「めんどくさい」など気持ちが落ち込む言葉はつかわないようにします。「ちがう」は「すてき」なので，否定されてもおちこまず，すてきと思えるようにしたいです。自分の夢を持ち続けて，あきらめずに努力します。 ○ぼくは，植松さんの話を聞いて心に残ったことが2つあります。1つ目は，人はたりないからこそ協力し合えるです。理由は，ぼくはできなくても協力しないでいいと思っていたけど，植松さんは協力してロケットを作ったのでぼくも協力しようと思ったからです。2つ目は，不安の向こうがわに喜びがあるということです。理由は，そのことをぼくも体験したことがあり，共感できたからです。ぼくも，植松さんから学んだことをこれから生かしていきたいです。

○植松さんの話を聞いて，夢を追い続ける大切さを学びました。たとえ，みんなや先生に反対されても，もっというと，家族から反対されても夢を追い続ければ何かあるということです。もう一つは，自信の増やし方です。人と比べて上に行くことで，自信を増やすのではなく，ちがうやり方で増やしていくとおっしゃっていました。 ○ぼくは話を聞いて，一番心に残った言葉は「思うは招く」です。ぼくは，このことを聞いて，自分の好きなことをあきらめずにどうせむりと言われても夢にむかってがんばっていきたいと思いました。ロボットの弱点は考えることと聞きました。もし，失敗した時に，なんでだろうと考えようと思いました。 ○私は「夢」という「夢」がなかったけど，植松さんの話を聞いて，夢がたくさんあると思いました。植松さんは，みんなに反対されながらもロケットのことについて一生けんめい学んでいたから，私も植松さんのように，やりたいことにチャレンジしようと思いました。小さいころからのつみ重ねが今につながると私は思ったので，今のうちに夢をたくさんみつけ，コツコツとがんばっていきたいです。	○ロケットを飛ばしたり，何か物を作るときは失敗があるし，人間も失敗することがあることが分かりました。また，失敗はこわがらなくてもよいということや，失敗しない人や物はないということが分かりました。夢をもち，かなえるということは大変で，失敗もよくあるかもしれないけれど，そういうときこそ自信をもち，「自分もできるんだ！」「次はできる！！」と思って夢をかなえたいと思いました。 ○ぼくは，これから「もうだめだ。」などと思ったときに植松さんの話を思い出して，「もうちょっとやってみよう。」や「なんでそう思うんだろう。」などと考えて，いろいろなことにチャレンジしたいです。それに，植松さんが，「あきらめなさい。」や「どーせむり。」と言っている人は，「そんなことやってもいない人」と言われていました。だから，ぼくは，やったことがない人にまどわされずに生き，大人になっても「どうせ無理」と考えている人がいたら，「その考えはやめたほうがいい。」と言いたいです。
本地小学校	
○私は，できそうにないことはやらなかったけど，植松さんの話を聞いて，まずは，やってみようと思いました。 ○とても感動しました。夢をたくさんもち，いろいろな考えをもち，たくさん挑戦していきたいと思いました。	○夢のもち方を教わったから，元気が出た。 ○ぼくは，講演を聞いて，あきらめないで夢を追いたいなと思いました。
豊平小学校	
○自分の夢は自信をもって人に言いたいと思いました。だれかに悪口を言われたとしても，夢を追い続けようと今日の話を聞いて思いました。私も夢や思いをもちたいと思いました。夢を追いたいです。そしてかなえたいです。 ○「どうせ…」や「むり…」などを言わずに，あきらめずに自分の夢に向かっていきたいなと思いました。自分のできることを考えて積極的にやりたいと思いました。私もよく本を読みたいと思いました。 ○話を聞いて，やったことのない人に「できない」と決めつけられるのではなく，自分がやりたいことは他の人にめいわくにならない程度だと思いっきりやってもいいということが分かった。私が大人になった時，子どもに「できない」と決めつけないようにしたい！と思った。	○自分が今，好きなこと・目標にしていることは，だれに何を言われても，あきらめないということをよく学んだ。植松さんの過去の話などをしてもらって，あんな言葉をかけられても，あきらめずに，つき通して，夢を叶えてすごいなと思った。 ○自分も弟の上に立って，言ってたことがある。改めないとな，と思った。自分のすきなことをやりぬいていいんだ。今度あれにちょうせんしよう，と思えた。考えることがとても大切だなと思った。すきなことをしっかり自分なりにやろうと思えた。

ロケット作り・打ち上げの感想や思いについて	
芸北小学校	
○私がこまっているときに，私が「これどうすればいいかね？」と，となりの席の人に言うと，「説明書にこう書いてあるから，こうすればいいんじゃない？」と優しく答えてくれたし，私もアドバイスができたので，楽しかったし，またロケットを作ってみたいと思った。 ○説明書が分かりやすくて，読みながら作ることができました。ロケットを打ち上げてもらって，速いのでびっくりしました。	○少しだけがんばって話しかけて，いつもよりも少し楽しいふれ合いだった。デザイン一つ一つが，みんなちがってみんないい。ロケット作りも楽しかったけど，みんなでふれ合ったことが楽しかった。 ○ロケットを作っていくと，とてもわくわくした。 ○ロケットを作るときに助け合いながらできた。知らない人と友達になれたのでよかったです。
大朝小学校	
○知っている人が多かったので，楽しく作ることができた。わからないところも，丁寧に教えてくれて楽しかった。また，こういう機会があれば一緒にしたいと思った。 ○ロケット作りで物をつくる楽しさ・面白さを学べた。友達と協力してつくることができて楽しかった。つくるのは難しかったけど，説明書を見たら，すぐできた。知らない子とも仲良くなれた気がする。	○楽しかった。つくり方がわからないところを友達に聞いて，最後までつくることができてよかった。また，作ってみたいと思った。打ちあげるのが楽しみだ。接着剤がちゃんとついていないかもしれないからバラバラになりそうで不安だ。
新庄小学校	
○私は，班のみんなとロケット作りをして，とてもいい体験が出来たと思います。理由は，あまり北広島全部の学校と活動する機会もないし，人と関わる機会もないからです。 ○となりの人や班の人とあまり話ができなかったけど，作るのは楽しかったです。	○ロケットの打ち上げは出来なかったけど，楽しく作れたのでうれしかったし，達成感がありました。
川迫小学校	
○意外とロケットを作るのは，簡単だった。 ○楽しくロケットが作れた。 ○コミュニケーションをとることができた。	○少し難しかったけど楽しく作れた。 ○みんなに分からないところを聞いて，楽しくロケット作りができた。
八重小学校	
○最初はちゃんとできるか不安だったけれど，他校の人と協力して作ることができたので良かった。 ○班の中で，話し合ったり助け合ったりできたので良かった。 ○少しだけれど，人との関わりも深まったと思う。 ○打ち上げることはできなかったけれど，交流することができて良かった。	○となりの席の人が話しかけてくれて嬉しかった。 ○最初は静かだったけれど，時間が経つにつれて会話が増えて，楽しく作ることができた。 ○普段あまり会わない人とも話ができて良かった。 ○みんなで楽しく，助け合いながらロケットづくりをすることができて良かった。 ○自分だけのロケット作りをすることができて良かった。
八重東小学校	
○自分たちのロケットは飛ばすことはできなかったけれど，ロケット作りはすごく楽しかった。 ○打ち上げでは，あんなに飛ぶとは思わなかったので，びっくりしたし，楽しかった。 ○ロケット作りで分からない所があって，勇気を出して声をかけられた。 ○初めて会った人とロケット作りをして，友達もできたし，自分の思いを込めて作ることができた。	○パラシュートは難しかったけれど，けっこう簡単にロケットを作ることができてうれしかった。 ○ロケット作りを通して，他の学校の友達と協力し合うことができて，少しでも仲を深めることができ，良い時間になった。 ○知らない人ばかりだったけれど，少しずつ話すことができたし，協力できたのでよかった。楽しく作ることができた。 ○ロケットを見たとき，可能性を感じた。

壬生小学校	
○わたしは，他の学校の人に話しかけることもできたし，話しかけてくれたのでとても楽しかったし，うれしかったです。 ○ロケット作りでは，班の人が作り方をまちがえそうになっていたので，教えてあげて，けんかもなく，楽しくロケットを作ることができました。 ○ロケット作りをしているときに，他の学校の友だちにアドバイスをしてあげたり，してもらったりしてロケットを完成することができました。 ○ロケットを作って思ったことは，こんなに少ない部品を少し組み立てるだけで，パラシュートがひらくロケットが作れるなんてすごいと思いました。	○見習いたい友だちがたくさんいたので，これからの生活に生かしたいです。 ○分からないことがあれば，教え合って，協力して，完成したロケットを見ると，「やりきった」という気持ちがたくさんわいてきてうれしかったです。 ○交流や協力などをわすれず，学校生活にも生かしていきたいです。 ○ロケットは，私の夢，思い願いがこめられていて，一生大切にしないといけないものだと思った。 ○仲間と協力すると無限の力が出せると思います。仲間と協力して無限の力を出していきたいです。 ○他の学校の人との交流が深まったから，とても楽しかった。
本地小学校	
○難しかったけど，みんなと協力してできてよかった。 ○ロケット作りは，みんな集中してがんばりました。でも集中しすぎて，あまり話ができなかったです。 ○ぼくは，他の学校の友だちと仲良くロケットを作って，本当に楽しかったです。	○今回，他の学校の人と話せなかったので，またこういう機会があったら話したいです。でも，ロケット作りは，簡単で楽しかったです。 ○ロケット作りは，班のみんなと協力してできたのでよかったです。
豊平小学校	
○あまり会話ができなかった（きんちょうしていた）けど，みんなで同じロケットを作ることできょりが縮まったと思う。 ○グループの人でやさしく教えてくれたから少し友達ができたと感じた。グループの人と協力して作ったロケットにとても達成感があった。 ○一部の人としかしゃべっていなかったけど，相談しながらやって，楽しかった。もっと，色々な人としゃべってみたいと思った。打ち上げるのが楽しみです。	○ロケット作りは6人でやったけど，話す人もいれば，話さない人もいた。会話をしなかったので，楽しくなかった。でも，いろんな色があったので，考えながら絵をかくことができた。どうやって話しかければいいのか分からなかった。 ○ロケット作りをして，町内の小学校の子と協力してできた。難しくて，困っていたときは，近くの子が「大丈夫」と話しかけてくれて，少しだけど，仲が深まった。

プロジェクトを終えての「児童作文」

思いをのせて

芸北小学校　　林　実穂

今日は，ふるさと夢プロジェクトでロケット作りをしました。

植松さんのお話で心に残っているのは，「あきらめない」ということと「失敗は悪いことではない」ということです。

「あきらめない」は，夢を持って，それをあきらめないでいれば，きっと夢は叶うということだと私は思います。何事も，あきらめないでいればできるのです。

「失敗は悪いことではない」は，「失敗をしても自信を失うことはないよ。だって，みんな失敗しているもの。」ということだと思います。人間は，何もかも全てが初めてです。初めてのことをすれば，失敗します。失敗したことがない人はいません。だから，はずかしいことではないのです。また，失敗をすると，なぜそうなったのかを考えます。そうすれば，もう同じ失敗はしません。まさに，失敗は成功のもとなのです。

植松さんの話の後は，ロケットを作りました。部品を組み立てるだけの簡単なロケットは，すぐにでき，デザインにかかりました。胴体には「Ａｌｐｈａ６Ｓ」という文字を書きました。「Ａｌｐｈａ６Ｓ」は，このロケットの名前です。人それぞれにデザインし，どれもすてきなロケットになりました。「みんなちがってみんないい」です。

ロケット作りの間は，少しだけど，勇気を出して他の学校の人に話しかけてみました。何気ないことだったけど，勇気を出して話すことができた自分がうれしくて，話すことの楽しさを知りました。

わざわざ北海道から私たちに教えに来てくださった植松さん，夢プロのお世話をしてくださる方々など，私たちに学ぶ機会を作ってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

これから，今回学んだことを生かし，夢と希望に向かって全速力で飛んでいきたいと思います。

ふるさと夢プロジェクトの体験を通して

大朝小学校　　妹尾 和哉

ぼくは「ふるさと夢プロジェクトの体験」を通して様々なことを学ぶことができました。

まず，はじめに植松先生の講演を聞きました。講演会は自分の考え方を見直す，良い機会だと感じました。「夢をみるとなんでも叶う」「思うは招く」。今の現実と夢を結び付けていくために必要なことについて考えることができたように思います。ぼくはまだ，将来の夢が決まっていませんが，早く自分の夢をみつけて自分の考え方を大事にして，未来に向かってつき進んでいきたいです。

講演会の後は，ロケットづくりに挑戦しました。ぼくは，５人班でロケットづくりに取り組みました。ぼくは，人とコミュニケーションをとることがあまり得意ではないため，少し緊張してあまり話をすることができませんでした。となりにいた男子とは，話をすることができました。他の学校の人と交流を深めることができてうれしかったです。ぼくは，ロケットづくりにとても真剣に取り組んだので，できた時の喜びは格別でした。

ロケットの打ち上げもとても感動しました。つくったばかりのあんなに小さなロケットが火を噴きながら，空高くに飛んでいく様子に驚きました。その打ち上げの様子を見て，

ぼくは，朝の植松さんの講演でのお話を思い出しました。「夢や希望を持ち続けることが大切である」。この言葉の意味をもう一度考えることができました。ぼくは，まだ将来の夢が決まっていないので，自分の好きなことや趣味を大切にして，少しずつ夢について考えていきたいと思いました。一歩ずつでも前進することが大切だと思います。

ふるさと夢プロジェクトの体験を通して，自分の未来の在り方について考えることができました。自分の将来について真剣に考えていこうと思います。ぼくは植松先生と一緒に夢や目標についてお話をしてみたいと思いました。それが，将来の夢を見つける前のぼくの夢です。

ふるさと夢プロジェクト

新庄小学校　佐伯 日奈多

「不安の先には喜びがある。」私はその言葉がとても心に残っている。

植松さんは話の中で，「ロケットを発射させるときはとても不安だったけれど，ロケットが飛んだらとてもうれしかった。少し勇気を出せば喜びがある。」とおっしゃっていた。

私は失敗するのがこわくて，やろうとしないことが多い。しかし，植松さんの話を聞いていると，「失敗してもいいからやりたいと思ったことはやってみよう。」という気持ちになった。だから，ロケット作りのときにとなりの人に話しかけてみようと思った。しかし，ロケットを作っていてなかなか話しかけることができなかった。１回だけ，となりの人に分からないところを教えてあげることができたが，それだけだった。それだけだったが，私にとっては自分から話しかけることができてうれしかった。植松さんが言われていたことは本当だと思った。この経験から，自分から積極的に話しかけたり，いろいろなことに挑戦したりしようと思った。

ロケットは説明書に書いてある通りに作り，きれいに仕上げることができた。雨が降っていたので打ち上げることはできなかったが，植松さんが作ったロケットの打ち上げを見せていただいた。ロケットはとても速いスピードで空に飛んで行き，パラシュートを開いて落ちてきた。あんなに小さなロケットが空高く飛ぶなんて驚きだった。私も自分が作ったロケットを早く飛ばしてみたくなった。

私は，この夢プロジェクトを通してチャレンジすることの大切さを学んだ。これから先，いろいろな行事などで自分から進んで行動し，緊張することでもやってみようと思う。

夢プロに行って思ったこと

川迫小学校　藤井 穂佳

６年生の夢プロでロケット製作と，植松さんのお話を聞きました。私は植松さんのお話を聞いて，心に残った言葉が二つあります。

１つ目は「夢をあきらめなかったら，必ず実現する。」という言葉です。自分は夢があってもすぐに自分ではかなわない夢なのだと思い，すぐにあきらめてしまいます。しかし，植松さんのこの話を聞いて，夢をあきらめなかったらいつか必ず実現するのだなと思い，夢をあきらめずがんばったら，いつか人の役に立てることができるのかなと思いました。

２つ目は「みんなあきらめることを知らない，あきらめ方を教えるのは，やったことのない人だ」という言葉です。人は，みんな生まれた時には，あきらめ方を知らない。あきらめ方を教えるのは，やったことがない人だ。やったことがない人から教わるから，あきらめてしまう。自分の夢をいろんな人に言うとき，やったことがある人に聞けばいい，と

いうことを，初めて知りました。私は，いろんな人に「私にできるかな」と聞いた時「あんたには，無理でしょ。」と言われたことがあったので「そうか，聞く人を間違えたのだ。」と思いました。だから，やったことのない人に聞いたらあきらめる言葉を言われるので，やったことがある人に聞けばいいのだなと思いました。

ほかにも植松さんのお話の中で，心に残った言葉はいろいろあり，自分自身に自信が持てたような気がします。こんな機会があったら，また是非お話を聞きたいです。ロケット製作では，ほかの学校の人と，協力してできたので良かったです。

今年の夢プロで，夢はあきらめなかったら実現するんだとしっかり教えていただけました。本当にありがとうございました。

ふるさと夢プロジェクトを終えて

八重小学校　　溝下 純菜

ふるさと夢プロジェクトの中で，私が特に心に残ったのは，植松先生の講演です。約１時間色々な話を聞かせていただきました。植松先生から，失敗についての話や夢についての話等，とても多くの話を語って頂きましたが，それらのお話のどれもが大事な話だと思いました。

お話の中で植松先生は，「もしも失敗をしたくなかったら，何もしない，今できる事しかやらない，言われた通りにすれば良い」という話をされました。しかしその後に植松先生は，このようなことをすると「何もできない，成長しない，考える力が身に付かない」ということになると言われました。「確かにそうだな」と，とても納得しました。他には，「不安の先には喜びがある」というお話や，「協力し合うことの大切さ」のお話などを聞きました。植松先生の講演で聞いたたくさんの話は，とても印象に残りました。

ロケット製作では，ロケットを製作するだけではなく，同じテーブルの班の人との交流もできました。最初はみんなだまってロケットを作っていました。しかし途中から，同じ班の一人が私も含め班の人に話しかけてくれました。私はそれを見て，「自分から進んで周りの人に声をかけるなんて，勇気があってとてもすごいな。」と思いました。そこから班の中での会話がはずんでいきました。ロケット製作で誰かが困っていると助け合い，困っていなくても「大丈夫？」等の優しい声掛けもありました。その甲斐もあって，みんなスムーズにロケット製作を進めていくことができました。難しい所もあったけど，楽しく作ることができました。

今回植松先生の講演では，わたしが気付かなかったとても大事なことを約１時間もかけて語って頂きました。そしてロケット製作では，楽しくロケットを作ったり，班での交流で人との関わりを深めたりすることができました。とても，貴重な時間を過ごすことができて，良かったです。今日学んだこと，経験したことを，今後の生活に生かしていきたいと思いました。

あきらめない

八重東小学校　　山根 紀杏

植松さんのお話「思うは招く」を聞きながら，私はいろいろなことを考えましたが，その中でも特に心に残ったことがあります。それは，「好きなものをあきらめない。」「フライングする。」という言葉です。私は，神楽が大好きで，小学校３年生の頃から地元の東山神楽団で活動させてもらっています。しかし，今まで誰にも言っていませんでしたが，神楽

をやめようとしたことが何度かあります。笛を任され，「東山の笛」とは，「自分らしい笛」とは，私なりに考えながら，がんばって練習してはいましたが，お客さんに，「東山の笛じゃない。」「東山の太鼓に合わない。」と，何度も言われた時は，正直「私にはできない。」「やりたくない。」と思いました。

二か月間，笛に触らなかったこともありました。ですが，「神楽が好き」という気持ちは変わらず，「どうすれば，どうすれば…。」と，繰り返し考えていました。そんな中，数々の競演大会，公演，祭りに足を運び，たくさんの笛の音を聞きました。そして，一人でも多くの方に自分の笛を認めてもらうために，毎日毎日一生懸命練習しました。ここまで神楽に熱中できるとは自分でも思っていなかったし，「やめよう。」と思っても，やめられなかった理由が分かりました。

そして，今ではフライングをしてしまっています。笛だけでなく，「早く舞いたい。舞えるようになりたい。」という気持ちから，練習時間の１時間前には，父と練習場所に行き，舞うための練習もがんばっています。

植松さんのお話を聞きながら，「あの時，神楽をやめていたら，ここまで一生懸命になれるものに出会えなかったかもしれない。やめなくてよかった。」「舞うために，一歩を踏み出してよかった。」と，感じることができました。これから先，新たな壁に直面することがあるかもしれませんが，その時は，これまでの経験，そして「好きなものをあきらめない。」「フライングする。」という植松さんの言葉を思い出しながら，新たな一歩を踏み出していきたいと思います。

私にとっての夢をかなえるために

壬生小学校　　石橋 茉夏

私にとっての夢は，あいさつでこの壬生の町を笑顔にすることです。そのためにはレベル５のあいさつをだれにでもできるようにしています。

今回，私は「壬生の町にあいさつと笑顔が広がり，町のみんながもつそれぞれの色であふれてほしい」という夢をのせてロケットを製作しました。

このロケットを作るときにいっしょのグループになった人と，どんなロケットが作りたいか，そのロケットでどんな夢をのせたいのかということを話してみました。

私は植松さんの話にあった「不安の向こうがわに夢がある」というところが心に残りました。理由は，「自分でやってもどうせむり」と思うことがあったり，自分にとっての不安があったりしても，にげ出さず，それをすることによって自分にとっての喜びが生まれるということが分かったからです。これまで，「どうせむり」と言われてあきらめてきたことがありましたが，それはやったことがない人がっていることなので，「どうせむり」と言われても，がんばってやってみようと思いました。植松さんは，私の将来に大切なことをたくさん話してくださいました。これからずっとわすれてはいけない話で，ずっと自分に語りかけているお話だなと思いました。

ロケット製作では，説明書をよく見ながら作るときれいにできたので「やった」と思いました。このロケットは私の思い，願いがこめられていて，自分にとって一生大切にしないといけないロケットになると考えました。

私の班の人はほとんど話したことがなかったけど，少しだけ話すことができたのでよかったです。でも，もう少し交流をしたらよかったなと思いました。壬生小の人や，他の学校の知り合いの人ばかりと話してしまったので，また交流があったときには，もっと話せるようにしたいです。

今回のお話で分かったことをしっかり頭に入れて，「思うは招く」ということを実せんできるように，がんばりたいです。

ふるさと夢プロジェクト

本地小学校　　瀧本 優太

今日，千代田運動公園でふるさと夢プロジェクトの行事がありました。

最初に，植松先生の話を聞きました。植松先生は，途中，笑える話をまじえながら，夢に向かって進むにはどうしたらいいのか，自信をもつにはどうしたらいいのかを優しく教えてくださいました。

植松先生は，子どものころ，先生やお父さんから変な人だと思われていたそうです。中学校や高等学校では，自分の夢を先生に話すと「どうせ，無理。」「お前には無理だ。」などと言われたそうです。でも，植松先生はいろいろ考えて，「やったことのない人に言われてもわからない。」と思い，努力されました。そして今では，会社の社長になり，自分が夢にしてきたものをたくさんかなえられています。植松先生の会社には，世界で３つしかない無重力の状態をつくることができる装置があって，宇宙に関わるいろいろな人が来られているそうです。

植松先生のお話の中で心に残ったのは，「失敗してもそれが自信になっていく。だから，たくさんのことに挑戦してください。」という言葉です。ぼくは，今まで，失敗したら「もう失敗したくない。」「自分なんか…。」と思うことが多かったけど，それを乗り越えたら，たくさんの自信につながっていくということが分かりました。

お話を聞いた後で，ロケット作りをしました。ロケット作りでは，みんな真剣に取り組んでいました。実際に作ってみて，難しかったなと思うところは，パラシュートをゴムに取り付けるところです。糸が１本だけ付いていなかったり，変なところに付いたりしたので，３回もやり直しをしました。そして，何とかロケットが出来上がりました。そのあと，真っ白なロケットに色をつけました。時間が足らなくて，最後まで色ぬりができなかったけど，とてもいいロケットができました。そのロケットを飛ばしたかったのですが，雨が降っていたのでできませんでした。でも，植松先生が，雨の中，なんと３回もロケットを飛ばしてくださいました。ロケットは，とても高く飛んでいきました。

今度，天気のいい日に学校で飛ばすそうです。そのときが，とても楽しみです。植松先生がロケットを飛ばしてくださったのを見て，ロケットを飛ばしたい気持ちがさらに強くなりました。

夢プロとぼくの想い

豊平小学校　　石田 侑登

「一時間くらいあるのかぁ。」

ぼくはそんなことを考えながら，夢プロジェクトの会場へ行きました。ぼくは，長い話を聞くことが苦手だし，朝は調子が出ないので，とても重たい気持ちで会場入りしました。

ですが，いざお話を聞いてみると，おもしろおかしな話をしてくださる中に真面目な部分を入れてくださり，とても楽しくお話を聞くことができました。その一時間で，一番心に残っているのは，

「失敗しない人はいない！！」

と言われたときです。ぼくは、そのとき心に「グサッ！」ときました。なぜなら，今まで

のぼくは，失敗したら笑われたりばかにされたりすると思っていて，あまり自己主張ができなくて困っていたからです。

でも，植松さんのお話を聞いて，人は失敗するものだと思うことができるようになりました。他にも，植松さんのお話から，夢の大切さ，あきらめない心など，色々なことを学ぶことができました。ぼくは，このお話を聞くことができて，また成長することができたと思います。

だから，植松さんから学んだことを，これからずっと忘れることなく心にきざみたいと思っています。ぼくも，これから色々なことで迷ったりなやんだりすると思うけど，自分の思った道を，失敗をおそれずに進みたいと思います。

このふるさと夢プロジェクト―植松さんのお話のおかげで，夢をあきらめない心を強くしていきたいと思えました。ロケット作りでは，ぼくの想いを一つ一つこめて一生けん命作りました。大切な想いをこめた世界に一つだけのロケットが作れてとてもうれしかったです。

あいにくの天候のため，午後からロケットをみんなで飛ばすことができなかったのは残念でしたが，このロケットにこめた想いは絶対に忘れないと思います。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って

北広島町内小学校

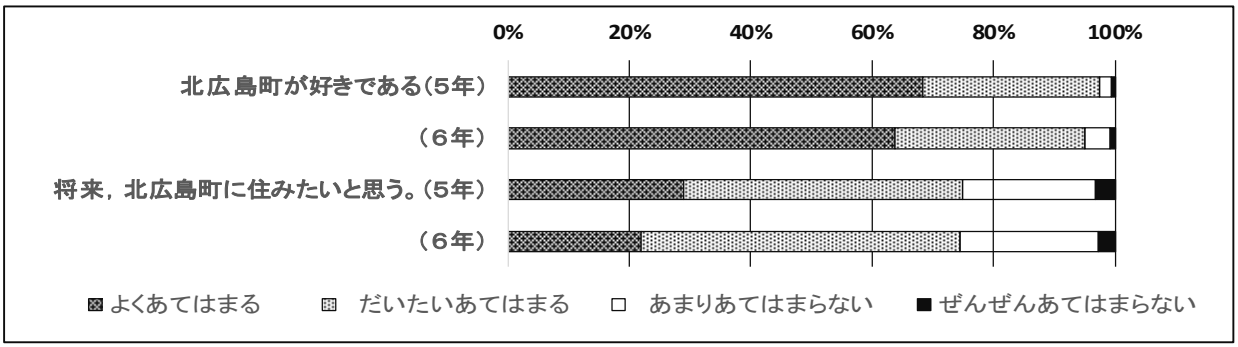
「ふるさとを知り，ふるさとを愛し，将来ふるさとに住みたい，ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」をめざして実施している『北広島ふるさと夢プロジェクト事業』の５年目を終えた。

昨年度は，集中豪雨のために大きく計画を変更して実施したり一部の活動ができなかったりした。今年は，一部の活動で雨の影響を受けて内容を変更したことはあったが，ほぼ計画通りに実施することができた。

５年生の「『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～」事業は，１つのグループがアマゴつかみ体験ができないことはあったが，その他の活動は計画通りにほぼ実施をすることができた。６年生の「夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう」事業は，雨天のために講演会・ロケット製作後の打ち上げは試験発射のみとなった。

参加児童・学校職員の実施後のアンケート等を分析すると，全体的には，「子どもに町の魅力を再認識させることができ“ふるさと”への愛着心を育てたり，将来『北広島町に住みたい，北広島町のために貢献したい』という思いや考えを育てたりすることに効果的であった。」「学校を越えた人間関係づくりができた。」と言える結果が出ている。参加した児童のアンケート結果，作文については前述した通りである。ふるさと北広島町や自分の生き方について考えを深めることができている。

【ふるさと（北広島町）への愛着心等に係る「アンケート結果」について】



「北広島町が好きである」の問いに対しては，５年生が約 97.4%，６年生が約 95.0%，肯定的な回答をしている。「将来，北広島町に住みたい」の問いに対しては，５年生が約 75.0%，６年生が約 74.5%，肯定的な回答をしている。肯定的な評価が高いことは，各学校のふるさと学習の充実に加えて，本事業が一定の成果を上げていることの裏づけと言える。企画・予算立てをしてくださった北広島町・北広島町教育委員会・町内関係諸団体・活動を支援してくださった多くの関係者に感謝したい。

事業実施後に，まとめた成果と改善点等については，次の通りである。来年度は学習指導要領の全面実施の年になり，授業時間の確保，教育内容の精選・見直し等を行っていかねばならない状況にある。また，教職員の働き方改革も推進していかねばならない。

来年度の「北広島ふるさと夢プロジェクト」に推進にあたっては，そのことを踏まえた取組になるようにしていく必要があると考える。

プロジェクト全体に関わって（成果）

キーワード　多様な体験・交流，命の大切さ，自己肯定感，夢の実現，ふるさとへの愛着心

○他校の児童と協力して課題を解決できる機会を設けることで，協力的・協調的な態度を学ぶことができると考える。

○民泊やロケットの製作・発表など，ふだんの生活ではできない体験ができて児童の心に残る活動になっており，社会性を育てたり将来の生き方について考えさせたりすることができる。

○５年生の体験活動は，命の大切さを感じる活動や民泊家庭での触れ合い，北広島町の自然を満喫する

体験を通じて，ふるさとへの愛着を深めることができた。
○民泊は，町内の家庭のため，沿岸部等，他の地域や人々との交流から学ぶことはできないが，今後の児童生徒の健全育成の観点においては，メリットはある。
○財政が厳しい中，夢プロに関わる予算を確保していただき，ふるさと学習を充実させることができていることに感謝する。
○他校の友達と協力して活動することを通して，コミュニケーション力が養われ人とつながることのすばらしさを改めて実感することができ，自己肯定感が高まっている。
○山県郡小学生陸上記録会とも合わせ，町内の同世代との交流は，自校にとどまりがちな児童の視野を広げるためにもよい機会となっている。同様に，教職員にも当てはまる。
○本プロジェクト事業は，キャリア教育の大きな柱として，児童が夢や希望，目標を持つことの大切さを体感できる事業である。事業の効果を地域や保護者へも理解していただいていると感じる。
○地域のよさに気づくことができたり，他校の学校の友達とのかかわりがもてたりするなど，これからの生き方について考えられる良い機会であった。
○中１ギャップ解消の面においても，入学前に他校の同級生と交流する機会があるのは進学に対する児童の不安解消に大きく効果があると感じる。
○民泊体験学習等, 児童が北広島町のよさを, 具体的に感じるきっかけとして大いに役立っていると感じる。
○ふるさと北広島を学びの場とし，体験を通じて自然，文化，人材，産業，地域社会（問題を含む）等を学び，積み重ねていくことは，今後の北広島を担う人材育成に直結する。

【反省・改善点等】

●５年民泊も町内一斉で行っているが，今後は，効率的な実施を考えて，単独校や近隣校での実施等，見直しをすることも考えるとよい。
●教職員の負担を考え，各種プロジェクト事業終了後のアンケート集計や，児童作文など報告書作成について，簡略化を図る必要がある。
●５・６年の関係する学校行事が多く，５・６年担任の負担が他の学年に比べて大きい。民泊を含む宿泊体験活動は，よい取組であるが，打ち合わせや諸準備・活動内容を工夫して，職員の負担をより軽減することを，考えるとよい。
●キャリア教育としての効果をさらに高めるために，児童一人一人に「人・もの・こと」に主体的に関わることのできる事前指導を充実させることが大切である。
●活動に主体的に取り組むために，そして体験したことを生かすために，事前に目標をしっかりと持たせ，事後にその検証をさせることが必要である。学んだことを生かす日常的な指導を継続していかねばならない。
●事後アンケートから見ると「将来，北広島町に住みたい」という質問と夢プロの活動内容が直接的につながっていない感じがするので，職業観も取り入れた内容が工夫できるとよい。
●新学習指導要領の全面実施による授業時間確保をすすめるためにも，教科等でカウントできる内容にしていくことも考えるとよい。（学校裁量でのカウントを極力減らす。各校の主体性も重要。）

学年ごとの事業の振り返り（引率職員）

【５年生の「『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～」について】

○他校の児童や民泊家庭の方と交流することで，人間関係が広がったりいろいろな人との関わり方を学んだりすることができた。
○各民泊家庭において，様々な企画を準備していただいており，児童が心に残る体験をさせていただいていることは，大変ありがたい。
○プログラムが充実して，よかった。
○アマゴのつかみ取りをして自分でさばいて食べるという命をいただくという体験は，児童に印象強く残っており，「生命」について考えることができるものであるので，今後も大切にしたい。
○川魚のつかみ取り体験では，雨でできなかったが，工夫していただいて非常に良かった。

○ウォークラリーは，コースがシンプルで分かりやすく，内容もちょうどよかった。
○町内の自然について学んだり北広島町ならではの体験をしたりすることが，北広島町のよさを知る良い機会となる。
○約１週間宿泊体験をすることで親のありがたみや，家のあたたかさ等を身をもって知ることのできる良い学習だと考える。
○大暮養魚場での活動は，「命」というキーワードが込められていて，大変よい。
○プログラムが確立しており，教員にかかる負荷が少なくなっている。また，整っているからこそ活動の安全が担保できている。
○自分たちが住んでいる「ふるさとのよさ」（自然の豊かさ，温かい人々）を発見できる良い機会になった。
○自分の家庭と民泊の家庭のきまりやルールの相違点に気付くことで，双方の家庭のよさを認識することができた。
○アマゴのつかみどりは，子ども達が生き生きと活動していたので良かった。
○命の尊さを感じながら食事することができていた。
○町内の５年生や初めて出会った民泊先の方々との多様な活動を通して関わることで，仲を深めることができたり積極的にコミュニケーションをとる力がついたりした。
○一人一人に役割があったり，グループでの集団活動を多く経験したりしたことで責任感が身についたと思う。また，親元を離れて３泊４日過ごしたことが自信につながり，準備から含めて自立が促せたと思う。
○民泊家庭の方が優しく接してくださり，別れを惜しむ児童の様子を見て，かけがえの無い思い出になっていると感じた。
○主題通り，自然や人材など北広島のよさを児童が実感できていること。
○民泊体験は，北広島町のよさを再認識したり，受入家庭の人々との温もりに触れたりすることを通して，ふるさとを大切にする心や豊かな心が育っている。

【反省・改善点】

●３泊４日の体験活動終了後，もっと民泊先で長い時間を過ごしたかったと願う子が多かった。午前は，全体で集まり活動し，昼過ぎから民泊家庭で過ごすという内容を２日間繰り返すこととなっているので，せっかく民泊するのだから，一日を通して民泊先でいろいろな活動ができるといいと感じた。
●ウォークラリーに係る表彰及び表彰状は必要なのか，再考する必要がある。
●民泊の目的を明確にした児童への事前指導や事後指導の充実が必要だと思う。
●今年度は，９月実施となったが，集中豪雨などのことも考慮して来年度以降の実施時期についてよく考えていく必要がある。
●限られた引率職員の体制なので，安全，効率のよい準備・職員の負担軽減を考慮して，よく練った計画を継続的に実施するようにしたらよい。
●田舎暮らし体験が，できれば日頃経験できないことをさせてもらえるとよい。事前に民泊家庭にお願いをしておくようにする。
●芸北地域を活動の拠点に今後もするのであれば，職業的観点も含まれる「せどやま教室（木を切り出して地域通貨を得る活動）」を実施するのはどうかと考える。
●本年度は９月中旬の実施で気候的に最適だったが，来年度は７月実施なので，熱中症等の対策が必要である。
●学校泊で防災学習を位置付けていたが，次年度は学校泊がなくなるとのことなので，活動の中で防災学習を位置付けることができるとよい。
●事後のアンケートの集計や記入に負担を感じた。この活動とアンケート内容がリンクしているのか，子どもたちからも疑問が出た。
●今年度は夏休みを挟んでの実施だったため準備期間に余裕があったが，夏休みが無いとなると準備や各校間での連携を図る時間が無いと思われる。
●民泊先での体験が様々であることはメリットでもあるが，内容によっては必ずしも児童の満足感につながらない面もある。（ただし，それも含めて「経験」ではある。）
●人間関係づくりの時に，各校で独自に行っている防災教育の視点を盛り込んで（例えば，消防署から招いてAEDを使う訓練をする等）みるのもよいのではないかと思う。

【６年生の「夢と希望を乗せて，ロケットを飛ばそう」について】

○児童が学校生活の中で「めんどくさい」と思った時に，植松先生の話を思い出させることで，ポジティブな流れにもっていくことができた。

○講演の植松先生の夢と希望を持った生き方，人（生命）を大切にすること，職業に対する考え方などの話は，子供にとてもわかりやすく感銘を受けた児童が多くいた。

○植松先生の話を聞くことで，児童が自分の夢や生活について考えることができていた。

○ロケットを製作し発射させる活動は，科学・宇宙・物づくりに興味関心をもたせ，子供にインパクトを与えるものになっている。他校の児童と協力して活動することで，人間関係の輪を広げることができている。

○植松さんの生き方や考え方から，児童がたくさんのことを学び，将来の夢の実現に向けて，前向きな気持ちになることができた。

○ロケットを作って飛ばすという，普段体験できないことができよかった。雨で後日，自校で飛ばすことになったが，児童は大変喜んでいた。

○６年生の児童にとって，とてもタイムリーでわかりやすい講演内容でした。夢と希望をもって生きることの大切さを学ばせていただきました。

○植松さんの講演を通して，夢や希望を明確に持つことの大切さを学ぶことができた児童が多数いた。自分の将来を考えるきっかけとなった児童もいた様子。（児童作文の記述等より）

○他校の児童と交流する良い機会であった。

○自分の将来のことについて考え，夢を膨らませる良い機会になっていると思う。

○講師の想いが児童のよい刺激になっている。

○植松努先生の講演は何度聴いても深い感銘を受ける。児童にとって自分の夢や将来について考えるよい機会となり，自分自身と向き合うことができる。

○「本物」を感じることのできるロケットづくりは，夢の拡大へ大きく寄与している。

【反省・改善点】

●グループを作ってロケット製作を行うが，コミュニケーションを上手に取れないグループもあり，何らかの手立てが必要に思う。

●講演内容等，児童に考えるきっかけを与える良い時間であったと思うが，この体験を通じて，即「北広島町に住みたい」という考えには直結しづらいのではないかと思った。「ふるさとや地域へ貢献したい」といった「他者と協働」「地域や社会へ貢献」といった観点を聞くと小学校段階の育みにつながると感じる。

●学校からの移動に時間がかかること。講演を直接聞くこと，大勢でロケットを作ることも意義はあるが，校内でＩＣＴを活用した講演の視聴も検討に値するのではないかと考える。

●ロケット製作の際に，他校の児童と関わり合うことが難しいところがあった。アイスブレイクの時間を少しでも設けると，もっと関わり合うことができるのではないかと思う。

●単なる体験活動に終わらせることなく，事後の指導をしっかりとし，以後の生き方を深めることにつなげていく必要がある。

●他校の児童とグループを作って活動させることはよいことであるが，初め気まずい雰囲気が続き取り掛かりに時間がかかった。最初に自己紹介をする時間を設けるなど話すきっかけを作ると活動にスムーズに入ることができると考える。

●プロジェクト実施後，アンケートの中に児童が感想を書く欄があり，その後作文も書くので，どちらか一つになるとよい。

●ロケットづくりの時間が他校の児童と交流する一番の「場」であると思うのだが，緊張からか，あまり積極的に交流ができていなかったように思う。６年生だから，自分たちから意欲的に自己紹介をして交流を進めてほしいが，少しでもアイスブレイクの時間があれば良かったのかと思った。

お　わ　り　に

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業がスタートして５年が経ちます。これまで，「地域」を教室，「地域の人々」を先生，「地域のひと・もの・こと」を教材として，体験的で探究的な学習活動に取り組んできています。この中山間地域においても，社会は複雑に入り組む激しい変化の時代を迎えており，ふるさと北広島を大切に想い，未来を切り開く力を持った人材の育成が求められています。「ふるさと夢プロジェクト」は，こうした社会の要請に応えるための取組みであり，安心・安全をベースに，元気な体，豊かな心，考える力，協働して知恵を生み出す力の育成を図るものです。

「ふるさと教育」や「体験活動」により子どもの豊かな心や人間性が育まれるということは様々な研究機関より報告されているところです。子供達が地域の資源・教育力を活用した学習をすることで，地域への愛着を高め，将来地域に貢献しようとする心を育てることができます。また，小学校５，６年生で行う事業では，学校間の垣根を越えて「体験活動」を実施することにより町内の仲間意識の醸成も図られてきています。多くの北広島町の友と活動することにより，活動の内容や効果が膨れています。将来，「あの時あの子」がと思い出したとき，ふるさと「北広島町」を強く想い返すように思います。子供達が体験活動を通してふるさと北広島町の素晴らしさを実感し，驚きや感動を他者と共有することにより，豊かな人間性や社会性を培い，子供達が自身の活躍する将来を見据える機会となればと考えます。

子供を取り巻く地域や家庭の環境，情報環境等が劇的に変化する中でも，子供たちがたくましく生きぬく力を身につける活動ができるよう，今後もご理解をいただき，ご協力をお願いいたします。

令和２年３月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
副　隊　長　　池　田　　庄　策
（北広島町教育委員会教育長）